

教育目的と三つの方針

各学部・学科の、「入学者受入方針（アドミッションポリシー）」「学位授与方針（ディプロマポリシー）」「教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）」と、全学共通教育の「カリキュラム編成方針（カリキュラムポリシー）」を示します。

人間文化学部

| | | |
|---------------|-----|---|
| ディプロマポリシー | ... | 2 |
| カリキュラムポリシー | ... | 2 |
| 国際文化学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 2 |
| ディプロマポリシー | ... | 4 |
| カリキュラムポリシー | ... | 5 |
| 健康科学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 7 |
| ディプロマポリシー | ... | 8 |
| カリキュラムポリシー | ... | 9 |

経営情報学部

| | | |
|--------------------|-----|----|
| 経営学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 10 |
| 経営情報学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 11 |
| 経営学科・経営情報学科 | | |
| ディプロマポリシー | ... | 12 |
| カリキュラムポリシー | ... | 14 |

生命環境学部

| | | |
|--------------|-----|----|
| 生命科学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 17 |
| ディプロマポリシー | ... | 18 |
| カリキュラムポリシー | ... | 18 |
| 環境科学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 20 |
| ディプロマポリシー | ... | 21 |
| カリキュラムポリシー | ... | 21 |

保健福祉学部

| | | |
|----------------------|-----|----|
| 看護学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 25 |
| ディプロマポリシー | ... | 26 |
| カリキュラムポリシー | ... | 27 |
| 理学療法学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 27 |
| ディプロマポリシー | ... | 28 |
| カリキュラムポリシー | ... | 29 |
| 作業療法学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 30 |
| ディプロマポリシー | ... | 31 |
| カリキュラムポリシー | ... | 31 |
| コミュニケーション障害学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 32 |
| ディプロマポリシー | ... | 34 |
| カリキュラムポリシー | ... | 35 |
| 人間福祉学科 | | |
| アドミッションポリシー | ... | 37 |
| ディプロマポリシー | ... | 38 |
| カリキュラムポリシー | ... | 39 |

全学共通教育

| | | |
|------------|-----|----|
| カリキュラムポリシー | ... | 40 |
|------------|-----|----|

人間文化学部

ディプロマポリシー

地球規模での共生”の視点から人間と社会のあるべき姿を探り、多様な文化の理解と健全な生活を営む知性・先見性・専門知識と、柔軟で複眼的な思考力を身に付け、地域社会に貢献する人材を育成します。

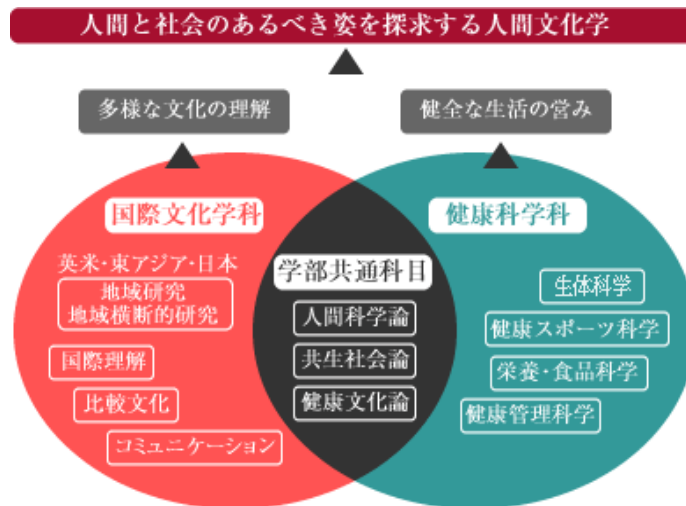
カリキュラムポリシー

人間文化学部は国際文化学科と健康科学科の2学科で構成されています。長い時間を経て形成され変化し続ける文化を学ぶ国際文化と、共通する文化の基盤をなす身体と健康について学ぶ健康科学。両学科の特性を生かして人間の文化・生活・身体・健康の諸課題を総合的にとらえる「人間文化学」を構築したいと考えています。

人間文化学部の特色は、少人数制の教育です。国際文化学科ではゼミ形式の授業と徹底した語学教育、健康科学科では基礎から応用まで多くの実験・実習科目が用意されています。

両学科を結ぶ学部共通科目「人間科学論」「共生社会論」「健康文化論」では、計15名の教員が担当するオムニバス方式により、常に新しい課題や分析の枠組みが提供されます。

文系的あるいは理系的発想だけでは解決困難な課題が増えている現在、柔軟で複眼的な思考力を身に付け、自ら挑戦する資質を育むためのカリキュラムとなっています。



国際文化学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

社会が複雑さを増している現代にあって、人類の平和と進歩に寄与するためには、さまざまな世界の文化を理解し、グローバルな視点をもって平等な立場から協力し合える人材が求められています。

国際文化学科では、地域文化に対する幅広い知識と洞察力を養い、既成概念にとらわれない柔軟な発想で、現代社会に対応できる問題解決能力と外国語運用能力を備えた人材育成を目指しています。

2 人材育成目標

自国の文化についての知識と敬愛の心を持ち、他国の文化、特に英米や東アジアの文化に対する理解を深め、人々の幸福と世界の平和のために行動する人材を育成します。

3 求める学生像

- (1) ひとつの地域を言語・社会・文化の視点から、複眼的に探求したいと考えている人
- (2) 複数の地域にみられる言語・社会・文化を、相対的に探求したいと考えている人
- (3) 異なる地域の文化と価値観を理解するための、コミュニケーション能力を身につけたいと考えている人

4 入学者選抜の基本方針

4 - 1 選抜の基本方針

(1) 知識・理解

高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力を備えているかどうかを重視します。特に、論理的な文章を読んで正確に理解する力、外国語運用能力、歴史・政治・経済・地理など、社会に対する深く幅広い理解を求めます。

(2) 思考・判断

論理的に思考し、さまざまな観点から客観的な判断を下せる能力を備えていることを求めます。

(3) 関心・意欲・態度

世界の文化、特に英米・東アジア・日本の文化に深い関心を持ち、それらの文化を真摯に理解しようと努力する態度をもっていることを求めます。

将来、大学で培った知識や見識をもとに、人々が幸福に暮らせる社会の構築と世界平和の実現に貢献する意志をもっていることを求めます。

(4) 技能・表現

論理的に思考し、それを表現できる言語運用能力を備えていることを求めます。

知識をもとにした柔軟な発想力を備えていることを求めます。

他人の意見に謙虚に耳を傾け、生産的な議論の出来るコミュニケーション能力を備えていることを求めます。

4 - 2 選抜試験の趣旨と重視するポイント

[一般入試(前期)]

大学入試センター試験において、本学部・学科が指定した教科・科目を受験した者を対象として個別試験を行います。大学入試センター試験の得点と、本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は合格とします。大学入試センター試験では、入学者選抜の基本方針の(1)を中心に、基礎学力を評価します。個別試験では、記述式の問題を課すことにより、(2)(4)などを合わせて評価します。

本学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を確認するため、「国語」の試験を課します。「国語」は「国語総合・現代文・古典」の範囲から出題し、点数化して評価します。

本学科で学ぶ上で必要な外国語運用能力を確認するため、「外国語」の試験を課します。「外国語」は「英語・英語・リーディング・ライティング」の範囲から出題し、点数化して評価します。

[一般入試（後期）]

大学入試センター試験において、本学部・学科が指定した教科・科目を受験した者を対象として個別試験を行います。大学入試センター試験の得点と、本学が行う個別学力検査等の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は合格とします。大学入試センター試験では、入学者選抜の基本方針の（１）を中心に、基礎学力を評価します。個別試験では（２）（４）などを合わせて評価します。

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため、「小論文」の試験を課します。「小論文」は、論理的な思考力、独創性、読解力、基本的な文章の表現力、記述力などについて総合的に判断し、点数化して評価します。

[推薦入試]

本学科で学ぶ上で必要な思考力・独創性・記述力などを確認するため、「小論文」の試験と「面接」を課します。「小論文」では入学者選抜の基本方針の（２）（４）を中心に評価し、「面接」では、入学者選抜の基本方針の（３）（４）を中心に評価し、調査書により（１）を確認します。

「小論文」は、論理的な思考力、独創性、読解力、基本的な文章の表現力、記述力などについて総合的に判断し、点数化して評価します。

「面接」では、国際文化学科で学ぶことの意義、勉学に対する意欲・志向等について質問し、個性の豊かさ、応答の仕方・態度などを総合的に判断し、点数化して評価します。

[帰国生徒特別選抜]

大学入試センター試験を免除して、書類審査、現代日本語及び面接の結果を総合して選抜します。「現代日本語」は論文、評論等から出題し、国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。「面接」は国際文化学科で学ぶことの意義、勉学に対する意欲・志向等について質問し、個性の豊かさ、応答の仕方・態度などを総合的に判断し、点数化して評価します。

[外国人留学生特別選抜]

大学入試センター試験を免除し、本学科が行う試験及び日本留学試験の結果（TOEFL又はTOEICの結果を含む）を総合して選抜します。本学科が行う試験は現代日本語及び面接です。「現代日本語」は論文、評論等から出題し、国際文化学科で学ぶ上で必要な読解力及び文章表現力を点数化して評価します。「面接」は国際文化学科で学ぶことの意義、勉学に対する意欲・志向等について質問し、個性の豊かさ、応答の仕方・態度などを総合的に判断し、点数化して評価します。

ディプロマポリシー

1 基本理念

基礎学力を養うための基幹科目・必修科目の履修と、学科専門科目の系統的学習、卒業論文の作成とを通して、幅広い知識を生かして、種々の問題にかかわる能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位「学士・国際文化学」を授与し、卒業が認定されます。

2 育成する学生像

- (1) 英米や東アジア・日本の地域を対象として、言語・社会・文化に対する理解を深め、人々の幸福と世界の平和のために行動する能力を身につけた人。
- (2) 地域相互の文化と価値観を理解し、社会に通用するコミュニケーション能力を身につけた人。
- (3) 国際文化にかかわる研究課題を発見し、創造的な分析を通して、人間と社会のあるべき姿を探り、責任ある行動を取ることができる人。

3 卒業時の達成目標

- (1) 知識・理解
社会で活動するために必要な学力の維持に努め、高度な文章読解力、不確かな情報に惑わされない洞察力を身に付けている。
- (2) 思考・判断
直面する課題に対して、論理的に思考し、さまざまな観点から客観的な判断を下して、信念をもって実行に移すことができる。
- (3) 興味・関心
ア 世界の文化、特に英米・東アジア・日本の文化に深い知識と関心を持ち、それらの文化を真摯に理解し、継承・発展に努めようとする情熱を持っている。
イ 大学で培った知識や見識をもとに、人々が幸福に暮らせる平和な社会の構築に貢献するため、具体的な活動を行おうとする意欲がある。
- (4) 技能・表現
ア 論理的に思考し、それを表現できる実践的な言語運用能力を身につけている。
イ 深い知識に基づいて、柔軟な発想力で現実の問題に対処できる。
ウ 他人の意見に謙虚に耳を傾け、生産的な議論の出来るコミュニケーション能力を発揮し、率先して課題解決に努力することができる。

カリキュラムポリシー

国際文化学科では、自国と他国の文化に対する理解を深め、現代社会で活躍できる人材を育てるために、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成しています。

<専門科目の構成>

- 1 「地域研究」を主眼に据えた学科専門科目として、英米・東アジア・日本の三つの地域それぞれについて、「地域論」「地域史論」「社会文化論」「文化史論」「言語文化論」「文学論」の6領域を設置し、ある一つの地域を、様々な視点から幅広く総合的に考察する力を養います。
- 2 学科共通専門科目として、専門的研究の基礎となる「外国語」、現代社会を国際関係の面から考える「国際理解」、複数の地域の文化や思想を比較研究する「比較文化」、相互の文化と価値観を理解するために必要な能力を養成する「コミュニケーション」という四つの分野を設け、現代社会に対応できる問題解決能力、外国語運用能力、柔軟な発想力を養います。

<専門科目の配当>

- 3 基礎的な学力の充実からより専門的な学習へ無理なく進んでいけるように、「外国語」「国際理解」の科目は1・2年次に、「比較文化」「コミュニケーション」及び「地域研究」の科目は2年次以降に配当しています。
- 4 地域ごとに設けられた6領域の「論」、及び学科共通科目として設けられた「国際政治論」「思想文化論」「日本語表象論」「比較文化論」は、「論」「基礎演習」「演習」「特論」とから成り立っています。2年次の「論」の上に、3年次の「基礎演習」「演習」を継続して履修することにより、一つの学問分野を深く系統的に学ぶことができるようにしています。

- 5 各地域の6領域の「論」、及び「国際政治論」「思想文化論」「日本語表象論」「比較文化論」の中から、三つ以上の「論」を選んで系統的に学びます。関連する諸分野を選択的に履修することにより、幅広い知識と洞察力とを養うことができるようにしています。履修の選択に当たっては、一つの地域を複眼的に理解する地域研究のほか、複数の地域の文化や思想を比較研究する、地域横断的研究をも可能としています。
- 6 「論」「基礎演習」「演習」の複数履修の上に、専門教育のまとめとして「卒業論文」を必修としています。

<授業の形態>

- 7 課題発見能力、情報活用能力、調査分析能力、ディベート・プレゼンテーション能力の養成を目指し、少人数による教育を行っています。特に、「基礎演習」「演習」をはじめとするゼミ形式の授業では、学生一人一人に目の行き届いた教育を行います。
- 8 少人数制の授業、及びネイティブスピーカー教員の配置により、徹底した語学教育を行います。地域研究を重視する立場から、英語、中国語、韓国・朝鮮語の修得に重点を置き、読解・作文の訓練と並行して、ネイティブスピーカーによる生きた会話の授業、「CALL 演習」「検定英語演習」など実践的な語学教育を行っています。なお、語学検定試験の受験については、これを奨励する意味から、受験料の補助も行っています。

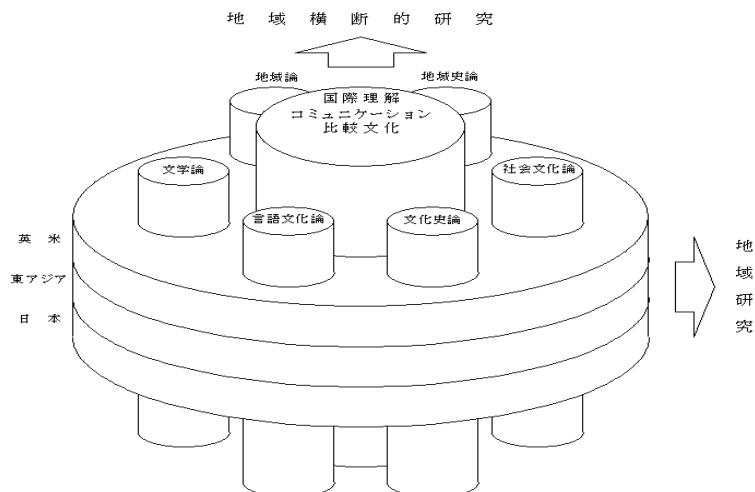
<授業の実践的展開>

- 9 海外研修の単位化と留学制度
海外の大学などで提供されている2週間以上のプログラムに参加し、適切な研修をしたと判断されれば「海外研修」の単位として認定します。また、ハワイ、イギリス、中国、韓国の大学と提携し、語学力を伸ばし文化に対する理解を深める機会を提供しています。
- 10 地域に根ざした教育・研究活動
地域文化学(宮島学)、博物館学実習、教育実習などの授業を発展させ、宮島観光英語ボランティアガイド、地域文化資料の企画展示、小中学校での教育ボランティア活動、イベントの翻訳ボランティアなど、学生が主体的に地域貢献を実践できる場を提供しています。

<資格・免許に関連する科目>

- 11 中学校・高等学校の教諭一種免許状(英語・国語・社会)に必要な専門科目を設けています。
- 12 学芸員資格に必要な専門科目を設けています。

国際文化カリキュラムポリシー 専門科目の構成図



健康科学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

少子高齢社会にあって、「人間の健康の科学」を考究する学問の役割の重要性から、コメディカル分野の健康科学科では、健康増進をはじめとした「生活習慣病の予防」の観点から、生体科学、栄養科学、食品科学、健康スポーツ科学などについて、自然科学の分野だけでなく、社会科学的視点も含めた教育・研究を行います。

2 人材育成目標

本学科は、真に豊かで健康な人間生活の実現を目指し長寿社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上や、生涯にわたる健康の維持・増進と心身の調和的発達に、積極的に取り組む人材を育成します。

3 求める学生像

- (1) 人体の仕組みと健康とのかかわりに興味を持っている人
- (2) 食品・栄養と健康とのかかわりに興味を持っている人
- (3) スポーツと健康とのかかわりに興味を持っている人
- (4) 理科学実験が好きで探究心旺盛な人
- (5) 管理栄養士等の「一次予防」にかかわる仕事に強い熱意を持っている人
- (6) 食育にかかわる栄養教諭に強い熱意を持っている人

4 入学者選抜の基本方針

4 - 1 選抜の基本方針

(1) 知識・理解

次のいずれかに該当することを求めます。

ア 高等学校で履修した国語、社会、数学、理科、外国語について、教科書レベルの知識を有し課題を解くことができる能力を備えていることを求めます。

イ 高等学校で履修した国語、社会、数学、理科、外国語について、教科書レベルの基礎的な知識を有し課題を解くことができる能力を備え、農業、家庭若しくは体育に関する専門的な知識を有していることを求めます。

(2) 思考・判断

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめる能力を備えていることを求めます。

(3) 関心・意欲・態度

「人体の仕組みと健康」、「食品・栄養と健康」、「スポーツと健康」に関心を持ち、健康の維持・増進と心身の調和的発達の実現に、積極的に取り組む意欲を持っていることを求めます。

(4) 技能・表現

健康科学に関する自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現する能力を備えていることを求めます。

4 - 2 選抜試験の趣旨と重視するポイント

選抜の基本方針から、健康科学科では、次のような選抜試験を行います。

[一般入試(前期日程)]

主として選抜の基本方針(1)のアを念頭に置いて、大学入試センター試験と個別学力検査等を総合して選抜を行います。大学入試センター試験では、広く基礎学力をはかるため5教科6科目を課しています。個別学力検査においては、化学及び生物の範囲から教科書レベルの知識に関する記述的試験を課し、論理的思考力や理解力を評価します。

[一般選抜（後期日程）]

主として選抜の基本方針(1)のアを念頭に置いて、大学入試センター試験を課し、また、選抜の基本方針の(2),(3),(4)を念頭に置いて面接を行い、それらの結果を総合して選抜を行います。大学入試センター試験では、広く基礎学力をはかるため5教科6科目を課しています。面接においては、健康科学に対する関心・学習意欲、健康科学に関する知識及び理科(化学 又は生物)に関する教科書レベルの基礎的事項について試問し、論理的思考力や理解力について、その対応の仕方・表現や内容などから総合的に判断し、点数化して評価します。

[推薦入試]

選抜の基本方針の(1)を念頭に置いて、推薦入試では「県内高等学校等推薦」と「県内専門高等学校等推薦」があります。いずれについても、基本方針の(1)だけではなく、(2),(3),(4)にも該当することを確認するために、大学入試センター試験、書類検査及び面接を総合して選抜を行います。大学入試センター試験では、理科の基礎学力をはかるため化学 及び生物 を課しています。面接においては、健康科学に対する関心・学習意欲、健康科学に関する知識及び理科(化学 又は生物)に関する教科書レベルの基礎的事項について試問し、論理的思考力や理解力について、その対応の仕方・表現や内容などから総合的に判断し、点数化して評価します。

[外国人留学生特別選抜]

選抜の基本方針の(1)～(4)に該当することを確認するために、面接において、志望理由に関する質問を行うとともに、健康科学に対する興味・学習意欲、健康科学に関する知識及び理科に関する基礎的事項を題材として試問し、これらに対する応答能力・表現や内容を総合的に判断し、点数化して評価します。また、日本語留学試験の日本語及び理科(化学、生物)の結果(TOEFL 又は TOEIC の結果を含む。)を総合して選抜します。

ディプロマポリシー

1 教育目的

本学科は、真に豊かで健康な人間生活の実現を目指し長寿社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上や、生涯にわたる健康の維持・増進と心身の調和的発達に、積極的に取り組む人材を育成します。

2 育成する学生像

健康の維持増進並びに疾病予防に係わる「人体の仕組みと健康」、「食品・栄養と健康」、「スポーツと健康」についての専門的知識と課題発見及び問題解決のための基礎技能とコミュニケーション能力を有する人材。それを具現化した資格・免許として、『管理栄養士国家試験受験資格』『栄養教諭一種免許』『栄養士免許』が取得可能です。

3 学習成果

(1) 知識

- ア 健康の維持増進並びに疾病予防に係わる栄養と食品についての専門的知識
- イ 健康の維持増進並びに疾病予防に係わる生体科学についての専門的知識
- ウ 健康の維持増進並びに疾病予防に係わる運動・スポーツについての専門的知識
- エ 健康管理科学についての専門的知識

(2) 態度

- ア 新たな課題を発見し問題解決に向けて学究的に取り組む態度
- イ 人間に対する深い造詣と弱者への共感を有した人間中心的・倫理的態度
- ウ 諸課題の解決のために他者と協調し、組織的に取り組める社会的態度

(3) 技能

- ア 健康に係わる知見を、論理的・効果的に表現することのできる技能
- イ 健康の維持増進並びに疾病予防に係わる科学的調査・実験のための基礎技能
- ウ 健康の維持増進並びに疾病予防のための「食」と「運動」を企画・実践する基礎技能

カリキュラムポリシー

1 学習環境 = カリキュラム編成の理念

健康科学科では、上記のような学習成果をすべての学生に保障するために、以下のような学習環境を整備しています。

- (1) 全教員参加による、少人数の、きめ細かな対話型の初年度教育
- (2) 基礎から応用まで多彩な実験・実習・演習を含んだ専門科目群
- (3) 考える力・計画性・構想力を養うための所属研究室における3年次からの卒論研究
- (4) 学内・学外における調査・実習
- (5) 学内・学外の教授・学生の参加による学際的な形での卒論発表会

2 カリキュラム編成の指針

- (1) 社会科学の視点をも含めた豊かな教養と高い倫理観の涵養の視点から、全学共通教育科目合計78単位中から26単位以上を学ぶ。
- (2) 「生体科学」・「栄養・食品科学」・「健康スポーツ科学」並びに「健康管理科学」の4領域については、基礎から応用まで多彩な実験・実演・演習を含んだ学科専門科目合計128単位の中から86単位以上を履修可能とする。
- (3) 情報収集・コミュニケーション並びに実験方法の基礎を修得するために、関連の科目10単位中から4単位以上を修得する。
- (4) 「124単位以上」が卒業の要件であるが、学科専門科目合計128単位のうち、栄養士免許に必要な58単位、管理栄養士受験資格に必要な85単位を修得することで、それぞれ栄養士免許ならびに管理栄養士国家試験受験資格が取得可能。
- (5) 教職等に関する科目24単位を修得することで栄養教諭一種免許が取得可能

3 カリキュラムの構成



経営情報学部

経営学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

企業や行政団体，NPO などの組織とそれを取りまく環境との相互依存関係を究明し，また学問的に発展させて，その成果を実社会に活かすことを目的としています。

2 人材育成目標

- (1) 経営戦略・マーケティング，会計・ファイナンス，公共経営などに関する高度な専門知識を身につけた人材
- (2) 組織における人事，会計に関する高度な専門知識を身につけた人材
- (3) 地域活性化の意志を持ち，その担い手になりえる人材
- (4) 公認会計士，ファイナンシャルプランナー，税理士，中小企業診断士といった専門職をめざす人材
- (5) 地域社会や国際社会において自ら課題を発見し，解決する能力を身につけた人材

3 求める学生像

- (1) 高等学校で英語，国語，社会，数学，理科に関して十分な基礎学力をもつ学生
- (2) 社会のしくみや企業の活動を理解することに意欲や関心を持つ学生（社会科学に興味を持つ学生）
- (3) 社会科学を学ぶことで自己を確立し，さまざまな事柄に対して自分の判断力を高めたいと考えている学生
- (4) 経営・経済・社会の専門知識を身につけて，それを生かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある学生
- (5) 経営・経済・社会の専門知識を身につけて，それを生かした職業につきたいと思っている学生

4 入学者選抜の基本方針

経営学科では，一般入試（前期日程，後期日程）のほか，推薦入試（県内高等推薦，県内専門高等学校推薦，全国高等学校推薦），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜を実施し，求める学生像に従った人材を受け入れることをめざしています。

[一般入試（前期）]

高等学校の基礎的な学力を修得した学生を選抜するため，大学入試センター試験は5教科6科目とし，個別学力検査では国語と外国語を課します。

[一般入試（後期）]

高等学校の基礎的な学力を修得した学生を選抜するため，大学入試センター試験は5教科6科目とし，個別学力検査では外国語を課します。

[推薦入試]

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し，小論文，面接，提出書類を総合して選考します。小論文では経営学を学ぶ上での基本的な理解力，思考力，文章力などをみます。面接では本学科進学のための意識，学習意欲，高等学校時の活動実績等を点数化して評価します。

[社会人入試]

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では経営学を学ぶ上での基本的な理解力、思考力、文章力などを点数化して評価します。面接では本学科進学のための目的意識、学習意欲、経済社会への知的な好奇心等をみます。

[外国人留学生特別選抜]

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、日本留学試験（TOEFL 又は TOEIC の結果を含む）ならびに本学で実施する試験、小論文、面接を総合して選考します。小論文では経営学を学ぶ上での基本的な理解力、思考力、日本語による文章力などをみます。面接では本学科進学のための目的意識、学習意欲、高等学校時の活動実績、経済社会への知的な好奇心、日本語理解力等を点数化して評価します。

経営情報学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

企業や行政などの情報化や知識産業化に必要な情報学について、基礎から応用まで幅広い視点から学際的に分析し、また学問的に発展させることにより、豊かなデジタル社会の構築を目的としています。

2 人材育成目標

- (1) 企業や社会で、情報システムの企画・設計開発・運用管理の面において活躍したいと考える人（情報化推進者を目指す人）
- (2) 情報産業界において、それぞれ固有な問題を解決できる、情報システムを開発したいと考える人（情報処理技術者を目指す人）
- (3) 環境や社会に情報を活用することにより、エコ社会の実現に向け、環境に関する種々の問題を解決したいと考える人（エコ社会の実現に興味がある人）
- (4) 知的創造に関心を持ち、新しい産業やベンチャーの創出を推進したいと考える人（創造力のある人）

3 求める学生像

- (1) 高等学校で数学、英語、国語、理科、社会に関して十分な基礎学力をもつ学生（特に数学が好きな学生）
- (2) コンピュータの仕組みや情報セキュリティ、情報ネットワークなどの理解に意欲や関心を持つ学生（情報学に興味を持つ学生）
- (3) 基本情報技術者などの資格を取得し、社会で活躍したいと考えている学生
- (4) 情報の専門知識とスキルを身に付け、それを活かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある学生
- (5) 情報学の専門知識とスキルを身に付け、それを活かした職業に就きたいと思っている学生

4 入学者選抜の基本方針

経営情報学科では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（県内高等推薦、県内専門高等学校推薦、全国高等学校推薦）、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を実施し、求める学生像に従った人材を受け入れることをめざしています。

[一般入試（前期）]

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目）及び個別学力検査（数学、外国語）により評価します。

[一般入試（後期）]

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目）及び個別学力検査（数学）により評価します。特に、数学の得意な学生を選抜したいため、個別学力検査の配点を高くしています。

[推薦入試]

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。

[社会人特別選抜]

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。

[外国人留学生特別選抜]

本学で実施する小論文及び面接の得点と、日本留学試験の得点の合計点及び TOEFL 又は TOEIC のスコアを総合的に評価します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。

経営学科・経営情報学科

ディプロマポリシー

1 教育目的

企業や行政、NPOなどの組織が直面する現実の諸課題をその本質までさかのぼって、経営学と情報学の双方の視点から学際的に分析し、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材を育成します。

2 学習成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

【経営学科】

- ・ 組織とそれを取り巻く環境との相互依存関係の本質を理解できるような経営学に関する基礎知識
- ・ 経営に関する問題を把握し、解決するための戦略的意思決定を行うことができる思考力と判断力
- ・ 組織の制度設計に必要な基礎知識
- ・ 組織の情報化に対応するために必要な情報処理に関する基本的素養
- ・ 経営に関する自分自身の考えを他の人々にもうまく伝えることができる表現力

【経営情報学科】

- ・ 組織(企業、自治体、各種団体など)の経営戦略に基づき、情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進者としての能力
- ・ 情報処理産業界において、地域や組織ユーザなどの経営体の要件を理解し、情報処理システムの開発ができる情報技術者としての能力

3 学習環境

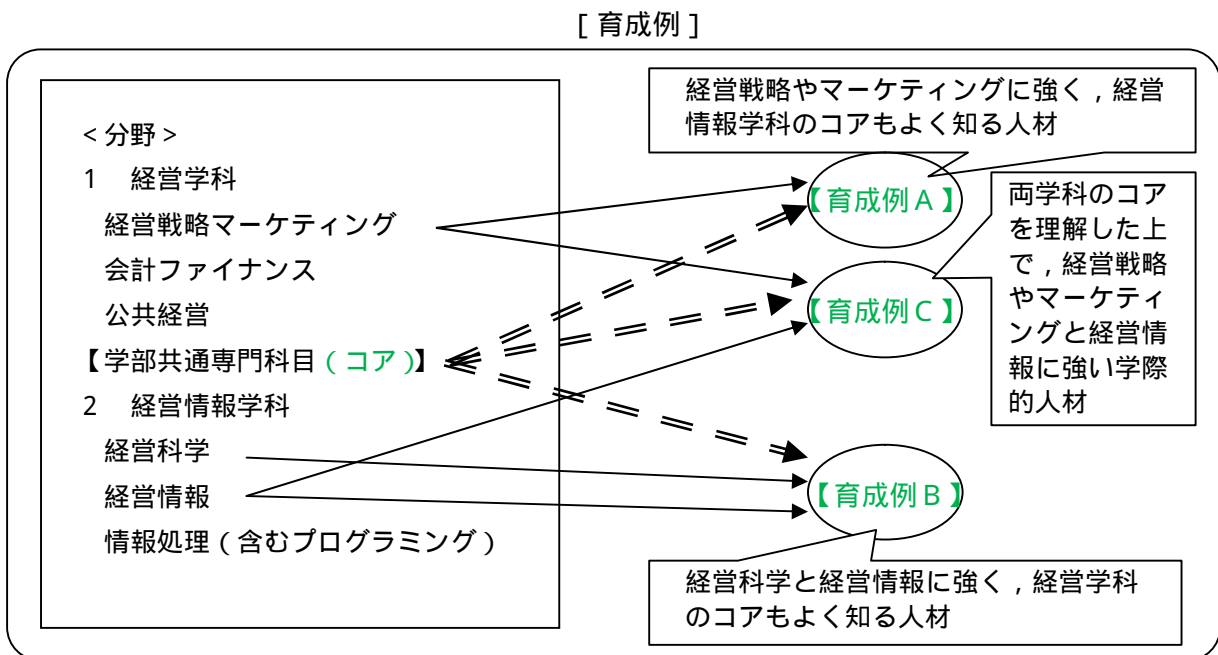
経営情報学部では上記のような学習成果を生み出すために、以下のような学習環境を提供します。

(1) 経営学・情報学をベースに2つ以上の分野に強い人材育成が可能な科目配置をおこないます。たとえば、以下のような育成例があります。

ア 経営戦略やマーケティングに強く、経営情報学科のコア（情報処理や経営科学など）を学ぶ科目配置【育成例A】

イ 経営科学と経営情報に強く、経営学科のコア（経営戦略やマーケティングなど）を学ぶ科目配置【育成例B】

ウ 両学科のコアを理解した上で、経営戦略やマーケティングと経営情報を学際的に学ぶ科目配置【育成例C】



(2) 広範囲な組織形態を対象にした教育

ア 経営学・情報学をベースに、企業組織のみにとらわれず、自治体やNPOを含む各種団体までの広範囲な組織形態を視野に、教育を進めます。

(3) 少人数教育を重視の教育

ア ゼミナールや演習を重視します。3年次、4年次に「専門演習」を2年間履修して卒業論文(必修)を作成します。

イ 理論の講義に止まらず、マス教育では限界のある少人数による演習・実験という科目を通じて、内容の深い理解、体験、スキル獲得を行います。

ウ そのために、学部としてのコア科目やスキル育成のための入門的な科目(簿記入門、情報リテラシーなど)を1年次に履修させ、早くからスキル育成を開始するとともに、学部としてのコア科目に早くからなじめるようにします。

(4) 企業実習などの外部組織とのコンタクト重視

ア 企業や組織の第一線での活動に接触する機会を拡大します。企業や組織の活動現場を体験することにより、マネジメントセンスが磨かれるとともに、外を向いた実践志向のマインドが高まります。また、有能な実務家とのコンタクトにより、最新の情報化の理解や向学の動機付けを図ります。

カリキュラムポリシー

1 経営情報学部の人材育成目標

- (1) 経営戦略マーケティング、会計ファイナンス、公共経営の3つの専門分野のうち、2つ以上の専門分野に強く、また多様な組織活動の担い手となることができる人材の育成を目指します(経営学科)。
- (2) 情報システムの企画・設計開発・運用管理の能力を身に付け、企業や社会の情報化に寄与できる「情報化推進者」、および情報産業界において情報システムの開発を行う「情報処理技術者」の育成を目指します(経営情報学科)。

2 専門教育課程の編成と特色

- (1) セメスター制と GPA 制度の導入
 - ア セメスター制を導入し、1年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。
 - イ これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることや、さらに意欲的な学習機会(留学や研修など)の組み込みが可能となります。
 - ウ GPA 制度を導入して学生指導を適切に実施します。
- (2) 学部共通科目の設定・充実
 - ア 各学科の分野グループごとに、コアとなる科目を「学部共通専門科目」として設定します。学部共通専門科目は各学科に共通の専門科目であり、各専門分野の入門、概論を配置します。
 - イ 具体的には、経営関連のコア科目として経営学概論、簿記入門など、経営情報関連のコア科目として経営情報概論、経営統計学入門などがあります。
- (3) コア科目、入門的科目の早期履修
 - ア 学部共通のコア科目やスキル育成の入門的な科目などの学部共通専門科目は1年次から履修させ、早い段階からスキル育成を開始するとともに、より専門的な知識を修得できるようにします。
- (4) 履修モデルの具体化
 - ア 両学科ともに、育成目標を目指した履修モデルを設けます。
- (5) スキル向上のための科目の充実
 - ア 学生のスキルを向上させ、実践力を身に付けさせるために、1年次の段階から学部共通専門科目として簿記、情報技術などを配置します。
 - イ さらに学科専門科目についても、経営学科では、ビジネスプラン、マーケティング、会計、ファイナンスなどのスキル系科目を充実させます。
 - ウ 経営情報学科においては、理論 演習・実験という科目を通じて、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技術を確実に身に付けさせます。
- (6) 3年次、4年次に「専門演習」を2年間履修して卒業論文(必修)を作成します。

3 経営学科の専門教育課程の編成

- (1) 経営戦略マーケティング、会計ファイナンス、公共経営の3分野とします。これらの分野はトライアングルを形成し、有機的にリンクしています(図1参照)。

3つの教育分野の内容は、次のとおりです。

ア 経営戦略マーケティング分野

企業等の経営活動の推進及び顧客との相互関係に関する理論と分析方法を中心とした分野です。

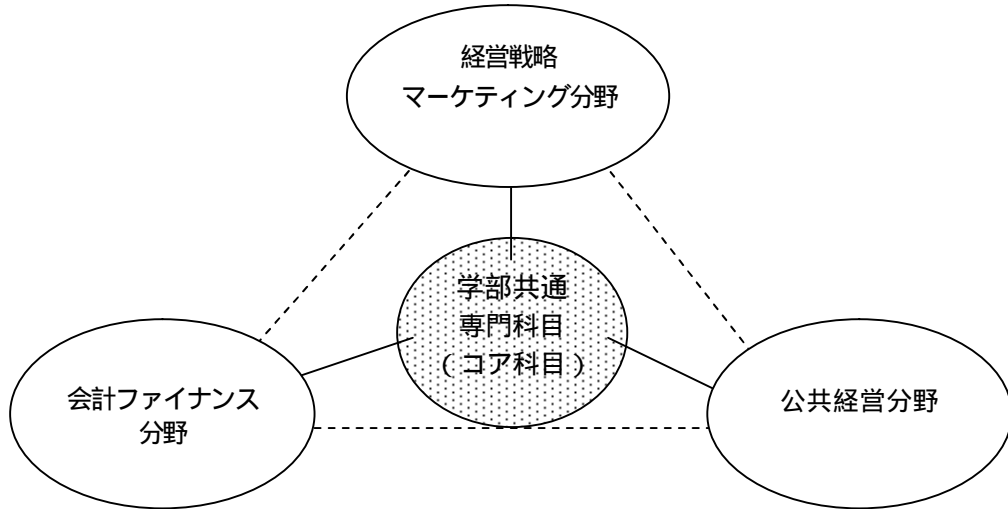
イ 会計ファイナンス分野

会計の理論、制度及び会計情報の分析方法並びに組織や個人の資金調達・運用に関する理論と分析方法を中心とした分野です。

ウ 公共経営分野

非営利組織や行政組織など幅広い組織や活動を対象にしたマネジメントの理論と分析方法を中心とした分野です。

図1 経営学科の専門分野の構成



(2) 3つの分野プログラムから2つを選択し、1つを主分野(アイウのどれか)、他の1つを副分野とします。

ア 経営戦略マーケティングプログラム: 経営学概論 + マーケティング論 + 経営戦略論 + 経営戦略マーケティング系科目 10 単位以上取得

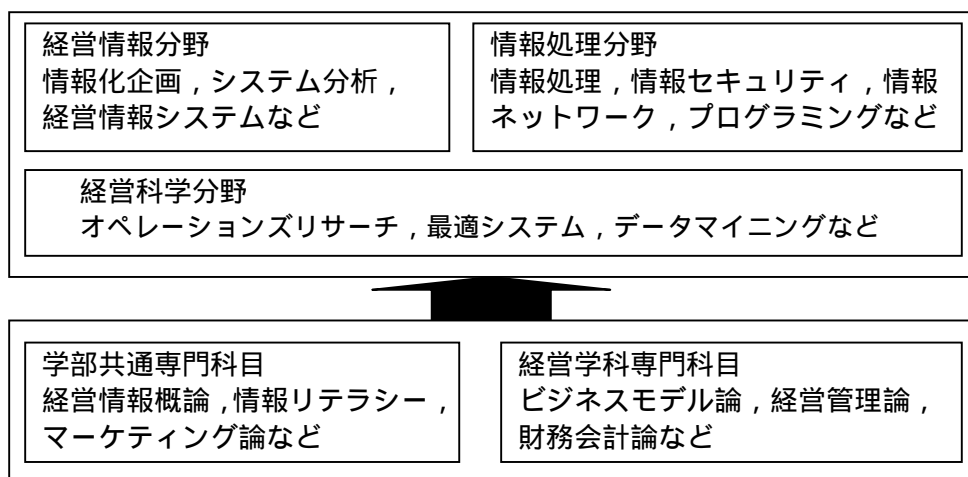
イ 会計ファイナンスプログラム: 簿記入門 + ファイナンス概論 + 会計ファイナンス系科目 10 単位以上取得

ウ 公共経営プログラム: 公共経営概論 + 理論経済学入門 + 公共経営系科目 10 単位以上取得

3 経営情報学科の専門教育課程の編成

(1) 学部共通専門科目を学んだ上で、経営科学分野、経営情報分野、情報処理分野の専門知識とスキルを身に付けた学生を育成します(図2)。

図2 学科の教育分野構成



3つの専門分野の内容は、次のとおりです。

ア 経営科学分野

企業活動や情報システムの運用に関し、データ解析により新たな知見の発掘や業務の最適化を行うために必要な理論や技法を修得します。

イ 経営情報分野

企業や社会の情報化を進める上で必要な情報化企画、費用対効果評価、業務分析、情報システムの設計手順やその構築法などを修得します。

ウ 情報処理分野

情報システムを構成するために必要なコンピュータの仕組み、情報処理、情報セキュリティ、情報ネットワーク、プログラミング技法を修得します。

(2) 経営科学分野、経営情報分野、情報処理分野の3つの授業分野に区分しますが、「情報化推進者」の育成と「情報技術者」の育成を目指した履修モデルを作成し、修得科目を通じて、育成目標を具体化します。

生命環境学部

生命科学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

生命科学の学問体系はこれまでの分野ごとの縦割りから横断的、総合的な方向にシフトしています。また、先端的な技術の発展、新しい現象・原理の解明が進み、幅広い諸技術を融合させたバイオテクノロジー領域の発展がますます期待されています。生命科学科では、生命体の分子・細胞レベルから個体レベルまでの総合的な教育を行い、医療、健康、食糧などの問題解決につながる研究を通じ、「地域産業の再生と新規産業の創生」に寄与し、人類社会の福祉に貢献できる人材の育成を目指します。

2 人材育成目標

- (1) バイオサイエンスやライフサイエンス分野の基礎から専門にいたる教育、及び、生命体を持つ多種多様な機能の解明や応用に関わる研究活動を通して教育・研究の高度化を図り、成果を人類の生存に役立てる目的意識を持った人材を育成する。
- (2) 食品やその素材となる天然物を利用した資源開発や、それらの機能を高めた機能性食品までを包含する体系的な教育を行い、食品関連企業、医薬品関連産業分野などにも対応できる人材を育成する。

3 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

(1) 求める学生像

生物を愛し、生命現象や人体機能に関心を持ち、バイオテクノロジーの活用を通じて社会に貢献したいと考える次のような学生を求めている。

- ア 生命科学に強い関心を持っている人
- イ 物事を主体的にとらえ行動する人
- ウ 常に問題の所在を考え、解決策を主体的、自発的に探索できる人
- エ 自ら率先して計画を練って実験し、実証して考察することが好きな人
- オ 大学院に進学し、高度な能力と技術を身に付けようとする人

(2) 入学者選抜の基本方針

[一般入試(前期)]

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有し、かつ、課題を解くことができる。

[一般入試(後期)]

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有し、かつ、課題を解くことができる。特に理数系科目について関心・興味を有している。

[推薦入試]

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有する。さらに、教科書レベルの課題を解くことができるか、または、農業、工業などに関する専門的な知識技術を有する。特に、生命科学の諸現象や問題に関心・興味を有する。物事に対する洞察力を有し、自分の考えを論理的に説明できる。

[社会人特別選抜]

高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有する。生命科学の諸現象や問題に関心・興味を有する。物事に対する洞察力を有し、自分の考えを論理的に説明できる。

[帰国生徒特別選抜]

高等学校の教科書レベルの基礎的な知識を有する。生命科学の諸現象や問題に関心・興味を有する。物事に対する洞察力を有し、自分の考えを論理的に説明できる。

[外国人留学生特別選抜]

日本社会、文化に対する理解を有する。幅広い基礎学力を有する。生命科学の諸現象や問題に関心・興味を有する。物事に対する洞察力を有し、自分の考えを日本語で論理的に説明できる。

ディプロマポリシー

1 学習成果

バイオサイエンス、ライフサイエンスの高度な専門知識および技能を有し、生命体が持つ多種多様な機能の解明を通じて得た成果を人類の生存に役立てようとする態度を持っている。

(1) 知識

- ア バイオサイエンス、ライフサイエンスの高度でかつ幅広い専門知識を有する。
- イ 基本的な専門用語（英語を含む）を用いて知識伝達・情報共有ができる。
- ウ 専門知識や技術がどのように人類社会で活かされているか知っている。

(2) 態度

- ア 実践的経験を積むことにより分野の専門家・技術者として自立できる素養をそなえている。
- イ 物事を科学的根拠に基づき判断することができ、独創性を重んじる。
- ウ 知る喜びを体得し、忍耐強く取り組む姿勢をもつ。
- エ 生命科学に関する課題を発見し、多様な視点で課題を捉え解決に導く力をもつ。
- オ 向上心をもち専門分野にとらわれず広く知識を吸収する。
- カ 深くかつ多面的に物事を洞察する。

(3) 技能

- ア 専門機器が扱える(扱える能力をもつ)。
- イ 専門領域のデータを読むことができる。
- ウ 英語による専門文書が理解できる。
- エ 情報収集や分析、科学的手法による課題解決ができる。
- オ 個人や共同体、地域とのコミュニケーションスキル(情報発信、プレゼンテーション、相互理解)をもつ。

カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

(1) 専門基礎科目

高等学校で履修した主要理数系科目を大学専門教育を受ける上での基盤として捉え直し、基礎的知識、技能を身に付ける。1年次に配当される。

(2) 学部共通科目

専門基礎科目の基盤の上に展開される専門科目であり、2年時に配当される。生命科学科、環境科学科いずれの学科にも関連し共通性が高く専門教育の入門的科目からなる。

(3) 学科専門科目

専門基礎科目、学部共通科目の上に生命科学に関する幅広い知識と技術を身に付けるための科目群である。生命科学科で学ぶ上での基幹をなす科目、より特色のある専門性の高い応用的な科目、生命科学の基幹をなす技術を身に付けるための実験科目で構成される。2、3年次に配当される。

(4) 卒業論文

3,4年次の2年間に配当される必修科目。生命科学に関する研究課題に取り組み、研究の立案、実施、取り纏めを行って論文を作成する。論文作成により、生命科学に関するより深い理解、知識や洞察力、専門的技術を身に付ける。

2 専門教育科目の特色

(1) 生命科学の基礎から応用にいたるまでの充実した総合的・合理的な教育

生命科学科には、学科教育の根幹にあたる「基幹」科目群と、さらに「基礎生命科学」分野「食品資源科学」分野の発展的な2つの科目群を設け、基礎から応用にいたる教育を行う。また、3,4年次の2年間で行う実践的研究課題を設定した卒業論文については専門教員がきめ細かい指導を行っている。

(2) 基礎生命科学と食品資源科学の2本柱の専門教育

遺伝子・タンパク・生理活性物質など分子レベルから細胞・器官レベルにいたる生命科学の基盤を学ぶ「基礎生命科学」分野、バイオテクノロジーと関連が深い機能性食品から流通段階における食の安全性まで、食品全般を学ぶ「食品資源科学」分野の2つの特色あるカリキュラムの配置を行っている。

(3) 環境科学科と密接な連携をふまえた教育

環境科学科との共通科目の設定を行い、地球規模から市民生活レベルにいたる環境問題などにも、生命科学で学んだ知識を生かし、かつ、その技術の活用についても関心を抱かせるようにしている。

(4) 基礎科目・演習科目・実験科目を重視した教育

学生の基礎学力の涵養と創造性を養うため、基礎科目と演習科目、実験科目を充実させ、体験的に裏付けられた科学的な素養の修得と、知識に偏重しない真の実力を身につけることを目指しています。

3 ディプロマポリシーとの関係

| | 知識 | | | 態度 | | | | | | 技術 | | | | |
|--------|----|---|---|----|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| | ア | イ | ウ | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | ア | イ | ウ | エ | オ |
| 専門基礎科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学部共通科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科専門科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門実験 | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業論文 | | | | | | | | | | | | | | |

*ア～カは、ディプロマポリシーのア～カに対応

環境科学科

アドミッションポリシー

1 教育理念

地球が誕生して以来、微生物をはじめ多くの生物が関与して、人類が生息できる地球環境が誕生しました。そして現在、人類が地球環境に影響を及ぼしつつあります。我々の生活基盤である地球を守り、将来にわたって環境を維持していくことは我々の責務です。その責務を全うするために、地域および国際的に貢献できる積極的で創造性豊かな技術者・研究者を育成します。

2 人材育成目標

理工学技術を基本とする高度な環境科学の知識と健全な環境意識を持ち、技術的にはもちろん社会科学の素養も兼ね備えた環境科学技術者・研究者を育成します。

3 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

（1）求める学生像

環境科学科では、次の様な学生を求めています。

- ア 環境科学に強い関心を持って学習し社会に貢献しようとする人
- イ 常に問題の所在を考え、解決策を主体的、自発的に模索できる人
- ウ 自ら率先して計画を練って実験し、実証しようとするのが好きな人
- エ 大学院に進学し、高度な能力と技術を身に付けようとする人

（2）入学者選抜の基本方針

〔一般入試〕

高等学校で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有している。
高等学校で履修した理科、数学と英語について課題を解くことができる。

〔推薦入試〕

高等学校で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有している。
論理的な思考ができ、自分の考えを他者に解り易く伝える事ができる。

〔社会人特別選抜〕

社会生活を通して環境に関する強い問題意識を有している。
論理的な思考ができ、自分の考えを他者に解り易く伝える事ができる。

〔帰国生徒特別選抜〕

海外における生活を通して環境に関する強い問題意識を有している。
論理的な思考ができ、自分の考えを日本語で他者に解り易く伝える事ができる。

〔外国人留学生特別選抜〕

選択した理科と数学の科目について、我が国の高等学校で得られる基礎的な知識と同程度の学力を有している。

環境に関する強い問題意識を有している。
論理的な思考ができ、自分の考えを日本語で他者に伝える事ができる。

ディプロマポリシー

環境科学科における卒業時（学士授与時）の到達目標は、人間生活から産業界、自然界にわたる各種の環境課題に柔軟に取り組み、技術的解決を行う能力や望ましい社会システムの在り方を提言する能力を身につけていることです。

1 学習成果

具体的には、次にあげる項目の習得を到達目標とします。

(1) 知識

- ア 環境に係わる様々な事象の物理学・化学・生物学的な分析や評価を行う為に必要な知識を習得していること。
- イ 環境保全や修復あるいは資源の循環利用に関する技術の理論を理解していること。
- ウ 環境保全の実施や持続可能な社会経済システムの構築を行う上で必要となる法律や社会制度に関する知識を習得していること。

(2) 態度

- ア 環境に関する事象の分析・評価や環境の保全・修復に関する技術・システムの運用を率先して実施する意欲を有すること。
- イ 新たな手法の習得や開発に積極的であること。
- ウ 柔軟に思考できること。

(3) 技能

- ア 環境に係わる様々な事象の物理学・化学・生物学的な分析や評価を行える
- イ 環境保全や修復あるいは資源の循環利用に関する技術やシステムを運用できる
- ウ 他者の意見を尊重しつつ適切な解決策を提案できること。

2 学習環境

上記のような学習成果を生み出すため、以下のような学習環境を提供します。

(1) 知識の習得について

環境科学の探究に必要な基礎知識を習得する為に、必修の学部共通専門教育科目を配し、環境科学に関する基礎的な共通知識を持つために必修の学科基礎分野の学科専門教育科目を配しています。

(2) 態度の習得について

環境に関する新しい技術やシステムの取得や創造に積極的かつ主体的に取り組む態度を身に付けるために、学部必修と学科必修の実験科目では、小人数のグループで実験操作が行えるように実験実習室の充実を図っています。

(3) 技能の習得について

環境に関する基礎技能を習得する為に学部必修の実験科目を配し、環境科学に関する必須の技能を習得する為に学科必修の実験科目を配しています。また、必修の卒業論文研究の実施期間を2年間としており、中間発表会と最終評価の為に卒業論文発表会の2回の発表会等を通して自らの考えを論述し議論する機会を提供しています。さらに、必修の卒業論文研究では、きめ細かな研究指導を行う為に卒論担当教員が担当する1学年の学生数を1教員当たり3～4名となるようにしています。

カリキュラムポリシー

環境科学科のカリキュラムは、全学共通教育科目、専門基礎科目、学部共通の専門教育科目と学科の専門教育科目で構成されています。また、卒業論文研究は必修科目になっています。

1 専門教育科目の構成

多くの学問分野の基礎知識を広く学ぶために、学部共通の理系の基礎科目を1,2年次において31単位以上、学科基礎分野の専門科目群を、1~3年次において8単位以上履修することで、幅の広い視野を身につけると共に環境を学ぶ上で必要な基礎的事項を学びます。

2,3年次からは、4つの学問分野を柱とする専門科目を配置しており、自らの志向に沿った環境に関する専門知識が学べます。

環境科学科では、特に実験・実習や演習を充実させており、卒業論文を履修する上で3単位の理系の基礎の実験科目と6単位の環境科学科専門の実験科目の習得を義務付けています。また、各専門分野の講義で習得した高度な理論を実地で学ぶ為に、3年次から6単位以上の専門教育の実験・演習科目を習得することにより社会で役立つ実践的な力を身につけます。

教育科目の構成は右図のカリキュラムマップで示されます。

2 専門教育科目の特色

環境科学が探究する学問分野は、多岐にわたると同時に相互に密接な関係を持つことから、人材育成目標に示した幅広い専門教育分野を効率的・効果的に学習するために、環境化学分野、環境生物分野、環境工学分野および社会科学分野を設けています。

- (1) 環境分析化学分野の専門教育は、環境に関する無機・有機化学分析や放射線計測学等、化学や物理学に基づく環境分析と環境修復技術について学びます。
- (2) 環境生物学分野の専門教育は、生化学、生態学や物質循環・代謝などの知識を深め、環境を生物(化)学的な側面から総合的に評価することを学びます。
- (3) 環境工学分野の専門教育は、物理学、化学や微生物学等を基礎とした環境保全技術や資源化技術について学びます。
- (4) 社会科学分野の専門教育は、環境政策学や環境経済学等の国際的かつ地域的な環境問題の解決や政策立案と実務に対処することを学びます。

環境科学科カリキュラムマップ

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|------------|--|--|---|--|
| 全学共通教育科目 | フレッシュマンセミナー 英文講読 初・中級英会話 体育実技 保健体育理論 情報処理入門 情報科学入門 | 検定英語 中国語 ドイツ語 哲学 心理学 日本語表現 倫理学 | 日本国憲法 人権論 法学 経済学 経営と現代社会 科学と医学 社会福祉概論 | 地球科学 食料とエコロジー バイオと環境 健康文化論 人間科学論 共生社会論 地域の理解 キャリアデベロップメント |
| | | 上級英文読解 実用英作文 専門英語講読 | 歴史学 教育学 文学 | キャリアビジョン インターンシップ |
| 学部共通専門教育科目 | 数学 化学 | 生物学 物理学 | 数学演習 化学演習 | 生物学演習 物理学演習 |
| | 環境科学概論 | | フィールド科学 | |
| 実験・実習 | 化学実験 物理学実験 | 生物学実験 | 卒論履修時に習得していること | |
| | | 地学実験 | フィールド科学実習 | |
| 学科基礎分野 | 物理化学 | | | |
| | 環境数理学 | | 環境リスク学 | |
| 環境分析化学分野 | 有機化学 無機化学 分析化学 | | 微生物学 生物化学 生物統計学 | バイオテクノロジー概論 フィールド科学 分子生物学 |
| | 環境無機分析化学 | | 環境材料化学 | 放射線計測学 |
| 環境生物学分野 | 環境植物代謝栄養学 | | 生態学 | |
| | 環境微生物学 | | 環境生化学 環境保全生物学 | 環境衛生生物学 環境リスク学 |
| 環境工学分野 | 環境水理学 | | 環境衛生学 | |
| | 水環境管理工学 | | 環境システム工学 基礎バイオレメディエーション | |
| 社会科学分野 | 環境秩序構成論 環境政策学 地域環境計画論 | | 環境フィールドワーク論 自然資本論 | |
| | | | 水士環境論 環境経済学 環境管理技術論 | 生物資源国際管理論 環境会計学 |
| 実験・演習 | 専門基礎実験 (化学系) 専門基礎実験 (生物系) 分析化学実験 | | 卒論履修時に習得していること | |
| | | | 環境学実験 (環境生物系) 環境学実験 (環境分析化学系) 環境学実験 (環境技術系) | 環境科学演習 環境科学演習 |
| 他学科履修 | 食品衛生学 | | 農産物貿易論 | |
| | | | 遺伝子工学 | 公衆衛生学 |
| | 卒論 | | | |

3 ディプロマポリシーとの関係

(1) 知識

ア 環境に係わる様々な事象の物理学・化学・生物学的な分析や評価を行う為に必要な知識を習得していること。

必修の学部共通専門教育科目，必修の学科専門教育科目を履修することにより必要とされる知識を全て習得することができる。さらに，環境分析化学分野，環境生物学分野や環境工学分野の選択科目を履修することで，より高度な化学分析や生物学的な分析・評価の知識を習得できる。

イ 環境保全や修復あるいは資源の循環利用に関する技術の理論を理解していること。

必修の学部共通専門教育科目，必修の学科専門教育科目を履修することにより必要とされる知識を全て習得することができる。さらに，環境分析化学分野，環境生物学分野や環境工学分野の選択科目を履修することで，より高度な環境保全や修復技術等に関する知識を習得できる。

ウ 環境保全の実施や持続可能な社会経済システムの構築を行う上で必要となる法律や社会制度に関する知識を習得していること。

必修の学部共通専門教育科目，必修の学科専門教育科目を履修することにより必要とされる知識を全て習得することができる。さらに，社会科学分野や環境工学分野の選択科目を履修することで，新たな社会経済システムの構築に関する社会制度や行政運営等に関する知識を習得できる。

(2) 態度

ア 環境に関する事象の分析・評価や環境の保全・修復に関する技術・システムの運用を率先して実施する意欲を有すること。

3種類の学部必修の実験科目，3種類の学科必修の実験科目と必修の卒業論文研究を履修することで習得できる。また，5種類の学科の選択実験・演習科目の履修により，高い意欲を習得できる。

イ 新たな手法の習得や開発に積極的であること。

3種類の学部必修の実験科目，3種類の学科必修の実験科目と必修の卒業論文研究を履修することで習得できる。また，5種類の学科の選択実験・演習科目の履修により，より積極的な態度を習得できる。

ウ 柔軟に思考できること。

必修の卒業論文研究を履修する過程で習得できる。

(3) 技能

ア 環境に係わる様々な事象の物理学・化学・生物学的な分析や評価を行えると共に新たな分析・評価手法を創造できること。

学部必修の共通実験・実習科目，学科必修の実験・演習科目を履修することにより必要とされる技能を全て習得することができる。また，環境学実験， ， ， や環境科学演習の選択科目を履修することで，より実践的な化学分析や生物学的な分析・評価の技能を習得できる。さらに，卒業論文研究のテーマ選定により新たな分析・評価手法を創造する為の技能を習得できる。

イ 環境保全や修復あるいは資源の循環利用に関する技術やシステムを運用できると共に新たな技術・システムを創造できること。

学部必修の共通実験・実習科目，学科必修の実験・演習科目を履修することにより必要とされる技能を全て習得することができる。また，環境学実験， ， ， や環境科学演習の選択科目を履修することで，環境保全や修復技術を運用する為の実践的な技能を習得できる。さらに，卒業論文研究のテーマ選定により新たな環境保全技術や資源の循環利用技術を創造する為の技能を習得できる。

ウ 他者の意見を尊重しつつ適切な解決策を提案できること。

卒業論文研究を通して，議論や論述の方法を習得し具体的な解決策等を提案する技能を習得できる。また，社会科学分野や環境科学演習の選択科目を履修することで，議論に必要な情報収集の技術やディベート手法等の実践的な技能を習得できる。

保健福祉学部

【教育理念・目的】

保健福祉学部では、高齢化が急速に進み、保健や医療、福祉を取り巻く環境が大きく変化している時代に、次のような人材を育て社会のニーズに応えることを目的としています。

- 1 高度な専門知識を有し、保健・医療・福祉に貢献する人間性豊かな人材
- 2 保健・医療・福祉の総合的実践力を有し、チームアプローチを実践できる人材
- 3 保健・医療・福祉の領域において総合的に教育・研究する基礎的能力を備えた人材

このため、5学科の連携教育により、専門的な知識や技術のみならず、チームアプローチや包括ケアシステムを支えることのできる総合的な実践能力を養う教育を行います。

【教育内容の特色】

1 教育課程の構成と基本的な考え方（図参照）

保健福祉学部の教育課程は、全学共通教育科目、人間と社会生活の理解に関する科目、保健医療福祉を発展させる科目、専門領域の基礎となる科目、専門領域特有の科目、の5つの科目群で編成されています。

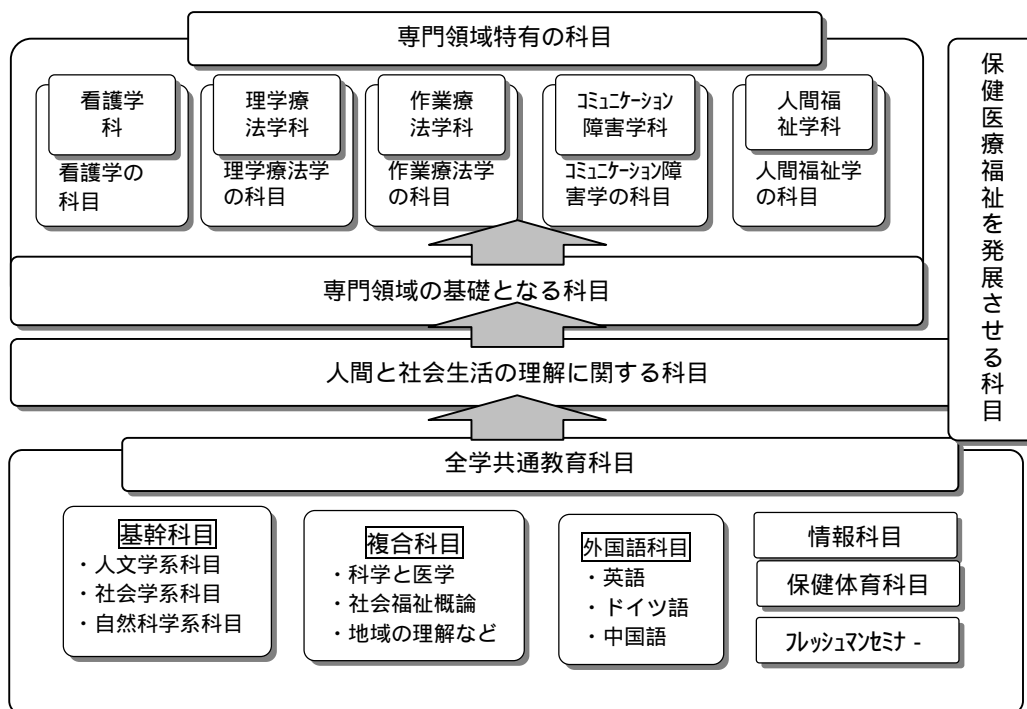
保健医療福祉を発展させる科目では、保健・医療・福祉の仕組みやあり方を学び、5学科が共同して演習し、社会の中での役割を認識し、保健・医療・福祉の連携を図ることができる資質を養います。

実習科目では、実践現場における的確な判断力、主体性、創造性等を養います。保健福祉学部附属診療センターなどの活用により、段階的な実習を取り入れるとともに教育と実践との密接な連携を図ります。

また、卒業研究は全学科必修科目としています。

2 教育課程の特色

- (1) 5学科共通の総合演習科目により、役割認識とチームアプローチの修得をめざします。
- (2) 臨床・実践教育に重点を置き、地域・社会での活動を可能とする科目を配置しています。
- (3) 小グループ教育を推進し、自主性と創造性を培います。
- (4) 科学的思考や国際感覚を育むための科目を設定しています。



保健福祉学部の教育課程の構成

看護学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

保健・医療・福祉の対象となる人々に全人的な対応ができ、看護の専門職業人として社会的責任を自覚しながら、高度な知識・技術・態度によって広く貢献する看護師、保健師を育成します。

また、他職種との連携において自ら進んで看護の役割を果たすことができ、生涯にわたり学習し成長し続ける資質を育てます。

2 人材育成目標

生命への尊厳をもって全人的に援助できる看護の専門性とあらゆる健康状態にある人々のニーズへの対応ができる知識と技術と態度をもった人材を育てます。

- (1) 臨床の看護実践に役立つ知識をもった看護師・保健師
- (2) 倫理的な配慮をしながら確実に看護技術を実践する力をもった看護師・保健師
- (3) 生命への尊厳をもって全人的に人と関わり、自ら進んで看護の役割を果たす看護師・保健師

3 求める学生像

- (1) 生命への尊厳を持ち人類愛に満ちた人間性豊かな人
- (2) 科学的探究心と自ら学ぶ学習意欲のある創造性豊かな人
- (3) 多様な価値観を受け入れる柔軟性と協調性のある人
- (4) 生涯にわたって専門性を発揮しようとする意欲と行動力を備えた人

4 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般入試と推薦入試を実施し、求める学生像について多角的な視点から受験者の学力や資質を評価します。
- (2) 社会人を対象とした入試や、看護系短期大学・専修学校の卒業者等を対象とした3年次編入学を実施しています。

[一般入試 (前期日程・後期日程)]

一般入試では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験については5教科6科目を課しています。また、個別学力検査については、面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

[推薦入試]

推薦入試では、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を行います。小論文では、著書、論文、評論、資料などを題材とする問題で、読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、評価します。面接では、保健、医療福祉を担う人材としての探求心、思考力、表現力などを総合的に判断し、評価します。

[社会人入試]

社会人入試では、社会人として職歴を3年以上有する志望者に対して、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を行います。小論文では、著書、論文、評論、資料などを題材とする問題で、読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、評価します。面接では、保健、医療福祉を担う人材としての探求心、思考力、表現力などを総合的に判断し、評価します。

[第3年次編入学]

看護師の国家試験受験資格が取得できる短期大学の当該学科及び看護系専修学校の卒業者等に、大学入試センター試験を免除し、小論文と英語の筆記試験、口述試問および面接を行

います。小論文では、著書、論文、評論、資料などを題材とする問題で、読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、評価します。英語の筆記試験は、読解力や表現力などを総合的に判断し評価します。口述試問では、看護学に関する専門的知識について評価します。面接では、保健、医療福祉を担う人材としての探求心、思考力、表現力などを総合的に判断し、評価します。

ディプロマポリシー

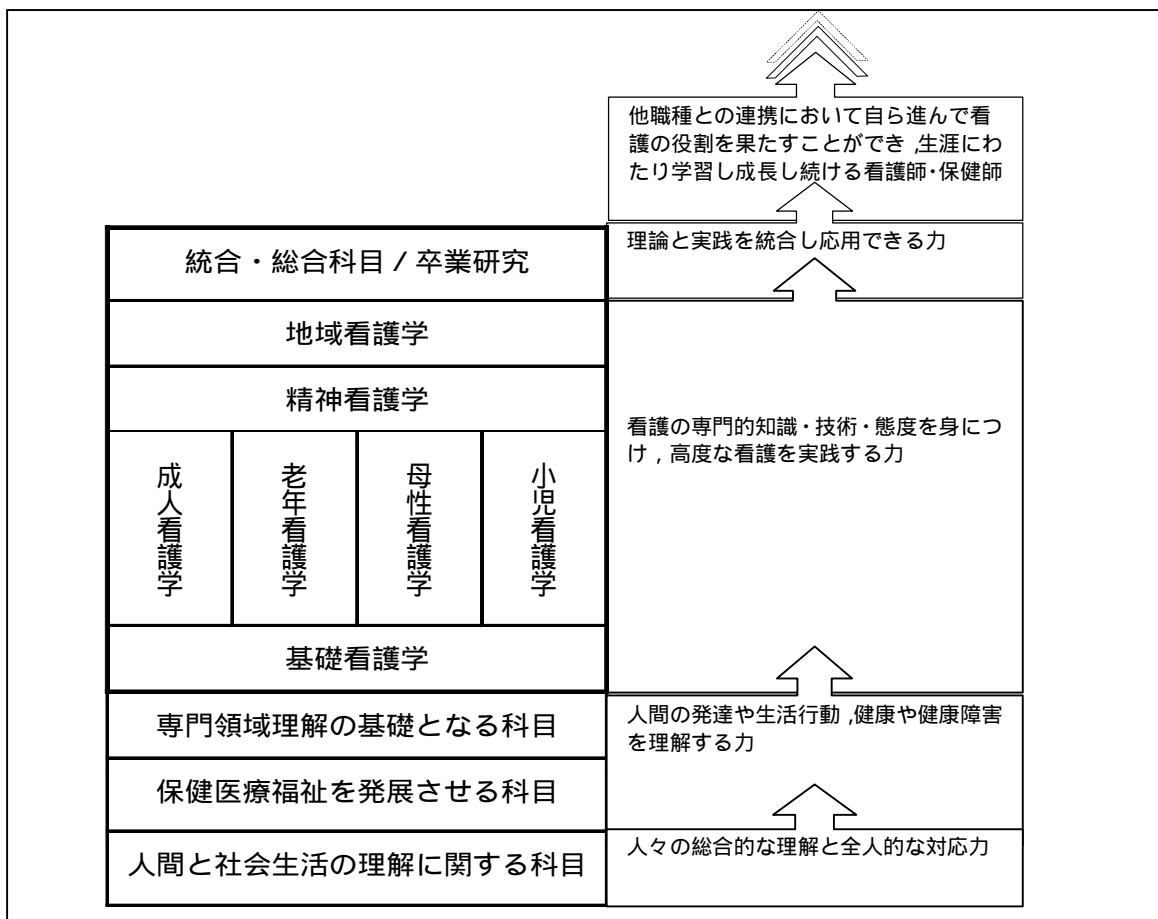
1 学習成果

生命への尊厳をもって全人的に援助できる看護の専門性とあらゆる健康状態にある人々のニーズへの対応ができる知識と技術と態度をもった人材を育てます。

- (1) 臨床の看護実践に役立つ知識をもった看護師・保健師
- (2) 倫理的な配慮をしながら確実に看護技術を実践する力をもった看護師・保健師
- (3) 生命への尊厳をもって全人的に人と関わり、自ら進んで看護の役割を果たす看護師・保健師

2 学習環境

- (1) 「人間と社会生活の理解に関する科目」「保健・医療・福祉を発展させる科目」「専門領域理解の基礎となる科目」の各領域と「看護学の科目」を他学科の学生や教員とも交流しながら有機的に学ぶ環境を提供します。
- (2) 看護学の知識と技術を臨床の場において適用する「学内演習」「臨地実習」を重視して、小グループを編成し、医療現場での判断力と実践力、協調性を養います。
- (3) 臨地実習は、県内の病院、社会福祉施設、保健所、市町村、訪問看護ステーション等で実習指導者、施設設備等の受入体制が整った施設において実施します。



カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

基礎的な学習から段階を追って看護の専門性を深く学習する構成としています。

- (1) 看護を実践するための基礎を幅広く学習する科目
全学共通教育科目，人間と社会生活の理解に関する科目，保健・医療・福祉を発展させる科目，専門領域理解の基礎となる科目
- (2) 看護の専門的知識・技術・態度を身につけ，高度な看護を実践するための学習
専門領域特有の科目
- (3) 理論と実践を統合し応用する学習
統合・総合科目，卒業研究

2 専門科目の特色

- (1) 学生が自分でテーマを選択し，自分自身から積極的に学ぶ姿勢を身に付けるための「フレッシュマンセミナー」，また，他職種とのチームアプローチのあり方，連携方法を検討し，それぞれの役割を認識するための「チーム医療福祉演習」を設定しています。
- (2) 看護学の科目は，成長発達段階と健康段階，さらに場と状況の特性からの3重構造で構成しています。
ア 看護の考え方，方法などの基本的学習
イ 人々の成長発達段階と，病院，施設，地域・家庭という看護の場や対象の特性の理解および健康の保持・増進，回復過程の援助にかかわる理論と方法
ウ 病気や障害など人々の特殊な健康状況にかかわる理論と方法
- (3) 臨地実習は，看護学の知識と技術を臨床の場において適用し，理論と実践の統合を図ることを目的としています。

3 ディプロマポリシーとの関係（図1）

- (1) 「全学共通教育科目」，「人間と社会生活の理解に関する科目」における学習を基本として，保健・医療・福祉の対象となる人々の総合的な理解と全人的な対応力を養うことができます。
- (2) 「保健・医療・福祉を発展させる科目」，「専門領域理解の基礎となる科目」は，人間の発達や生活行動，健康や健康障害について保健・医療・福祉の視点から幅広く学び，看護実践への基礎とします。
- (3) 「専門領域特有の科目」では，既習事項を統合しながら，高度な看護の専門的知識・技術・態度を身につけ，看護を実践するための学習ができます。
- (4) 統合・総合科目および卒業研究により，理論と実践を統合し応用できる力を身につけ，他職種との連携において自ら進んで看護の役割を果たすことができ，生涯にわたり学習し成長し続ける資質を養います。

理学療法学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

多種多様な問題を抱えたクライアントに対して医療専門職としての誇りを持って，先端医療施設における最新治療から在宅療養における生活指導まで実践できる理学療法士を育成します。

2 人材育成目標

- (1) 理学療法の高度な専門知識と技術の習得はもとより，医療従事者としての豊かな人間性と教養を持った理学療法士。
- (2) 医療専門職としての役割と責任を理解し，チームの中でリーダーシップを発揮できる理学療法士。
- (3) 科学的思考力や探究心を持ち理学療法学分野において研究活動もできる理学療法士。

3 求める学生像

- (1) 豊かな人間性を持ち年代に関わらずコミュニケーションのできる人
- (2) 積極性と協調性を兼ね備え、チームで活動できる人
- (3) 自ら学ぼうという学習意欲を持つ人
- (4) 諸問題に臨機応変に対応できる人
- (5) 保健医療福祉関係の仕事に対する強い熱意を持つ人

4 入学者選抜の基本方針

4 - 1 選抜の基本方針

- (1) 知識・理解
高等学校の教育課程における基本的な学力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 思考・判断
論理的に思考し、客観的な判断を下せる能力を備えていることを求めます。
- (3) 関心・意欲・態度
医療およびリハビリテーション領域の情報に関心を持ち、それらの情報を理解しようと努力する態度をもっていることを求めます。
理学療法士について生涯にわたり学習する意欲があることを求めます。
- (4) 技能・表現
建設的な議論が出来るコミュニケーション能力を備えていることを求めます。

4 - 2 選抜試験の趣旨と重視するポイント

[一般入試(前期・後期)]

広範囲にわたる基礎学力の修得度を評価するための大学入試センター試験と本学で学ぶ目的と意欲を評価するための面接試験により選抜します。

この選抜試験では、とくに基本方針(1)(4)を重視します。

[推薦入試]

広島県内各高等学校からの推薦者に対して 現役学生ならではの柔軟な発想と論理的思考を評価するための小論文と本学で学ぶ目的と意欲を評価するための面接試験により選抜します。

この選抜試験では、とくに基本方針(3)(4)を重視します。

[社会人特別選抜]

3年間の社会人経験を有する者に対して 社会人ならではの医療を中心とした社会問題への関心の高さと論理的思考を評価するための小論文と本学で学ぶ目的と意欲を評価するための面接試験により選抜します。

この選抜試験では、とくに基本方針(2)(4)を重視します。

ディプロマポリシー

1 学習成果

- (1) 知識
高度化および複雑化する医療・保健・福祉分野に対応できる幅広い教養と医療者としての倫理観を有します。
- (2) 態度
チーム医療の重要性を理解し、良好な人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を有している。また、理学療法士の専門家としてリーダーシップを発揮できます。
- (3) 技能
理学療法士として必要な技術である運動療法、物理療法、そして日常動作練習について基本的障害に対して独立して実施することができます。

2 学習環境

- (1) 臨床での問題を想定した模擬患者や国内論文だけでなく海外論文（英語）を使用した抄読などユニークな専門科目は配置しており、複数の教員で担当しています。
- (2) 理学療法士国家試験合格への積極的サポートとして下記内容で教員が支援しています。
 - ア 国家試験出題範囲と出題予測について常に情報収集をしています。
 - イ 学生からの依頼に基づき国家試験問題の解説講座を実施しています。
 - ウ 模擬試験を年5回実施しています。
- (3) 各学年チューター2名による教育・就職支援体制をとっています。
 - ア プロパーの1名以上配置により、臨床実習など学外実習における諸問題に対する迅速な対応を行っています。
 - イ 学年持ち上がり制による学生の個性に合わせた対応を行っています。
 - ウ 1回/週の学科会議での学生動向報告より、学生情報を全教員が共有しています。
- (4) 理学療法士の専門領域（下記）に対応した授業ができる教員を配置しています。
 - ・基礎系 ・神経系 ・骨・関節系 ・内部障害系
 - ・生活環境支援系 ・物理療法学系 ・教育・管理系
- (5) 医療専門職であることを意識した実践的教育
 - ア 教員による一般講演や研究調査に対して、ゼミの隔たりなく3-4年生を中心に参加する機会を多く設けています。
 - イ 附属診療所を使用した演習授業を実施しています。
 - ウ 模擬患者による演習授業を実施しています。
- (6) 臨床実習施設や卒業生就職施設などの外部組織とのコンタクトを重視しています。
 - ア 実習訪問や研究活動を通じた就職情報を確保しています。
 - イ 同窓会組織との連携を行っています。

カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

- (1) 理学療法士養成に必要な授業科目を必修科目とし、1年次から4年次まで系統立てて学ぶための構成（階層性）となっています。
- (2) 必修専門基礎科目では、2年次に理学療法学の根幹となる運動学系が多く科目配置されており、障害の評価や治療を実践するための基礎を学びます。
- (3) 必修専門科目では、3年次に流行や教員の研究分野にとらわれることなく、国家試験ならびに臨床実習の合格、そして卒業時に基本的障害に対する理学療法の実践ができることを目的とした科目が配置されています。
- (4) 充実した総合臨床実習（4年次）を行うための履修制限を設けています。
- (5) 特論科目では臨床ニーズを見据えた柔軟性のある授業内容としています。

2 専門教育科目の特色

- (1) 理学療法の高い専門知識と技術の習得はもとより、豊かな人間性と教養を持ち、医療チームの中での自分の役割と責任を十分に果たせる理学療法士の育成を目標とした科目配置になっています。
- (2) 理学療法士国家資格を得るためのカリキュラムであることが前提です。
- (3) 卒業研究においても科目配置は4年次ですが3年前期から指導教員の研究活動ならびに先輩の卒業研究を手伝うことで科学的思考や探究心の育成に寄与しています。

3 ディプロマポリシーとの関係

学習成果である<知識><態度><技能>に対応したカリキュラム配置としており、とくに演習科目と臨床実習、そして卒業研究を重視しています。またOSCE（客観的臨床能力試験）の実施が学習成果の担保として重要な役割を担っています。

作業療法学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

作業を通じてその人にふさわしい生活を再建する作業療法士を育成します。身体や精神，発達などの障害があるクライアントを対象に，身辺処理，仕事，遊びなどあらゆる作業を通じて，心身機能の回復を図ったり，クライアントが望む生活を支援したりするための知識と技術を身に付け，チームを組み合わせながら保健，医療，福祉に貢献できる人材の育成をめざします。

2 人材育成目標

人の作業を科学的にとらえる目を養い，多種多様な個別ニーズに対し，関連領域の専門職と連携してよりの確なケアシステムを提供できる作業療法士を育成します。

3 求める学生像

- (1) 人の作業と健康に高い関心を持つ人
- (2) 多様な価値観を受け入れる柔軟性のある人
- (3) 好奇心を持って自主的に学べる人
- (4) 前向きに忍耐強く努力する人
- (5) 論理的に思考し科学的に探求する人

4 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校までに習得すべき学力を求めます。
- (2) 動作・態度に優れ，理解・表現力を求めます。
- (3) 作業療法を学ぶための資質・適性を求めます。
- (4) 在学中と卒業後において，学び続け行動する意欲・積極性を求めます。

[一般入試]

大学入試センター試験において，本学科が指定した教科・科目を受験した者を対象として個別面接試験を行います。大学入試センター試験の得点と，本学が行う個別面接試験の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接試験の得点の高い者を合格とします。大学入試センター試験では，入学者選抜の基本方針の(1)を中心に，基礎学力を評価します。個別面接試験では，質問に対する回答により，(2)(3)(4)を評価します。

[推薦入試]

本学が行う小論文試験と個別面接試験の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接試験の得点の高い者を合格とします。小論文試験では，入学者選抜の基本方針の(1)を中心に，基本的読解と論述能力を評価します。個別面接試験では，質問に対する回答により，(2)(3)(4)を評価します。

[社会人特別選抜]

社会人として特定の課題に取り組み，やり遂げた経験をもつ者を対象として本学が行う小論文試験と個別面接試験の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接試験の得点の高い者を合格とします。小論文試験では，入学者選抜の基本方針の(1)を中心に，基本的読解と論述能力を評価します。個別面接試験では，質問に対する回答により，(2)(3)(4)を評価します。

ディプロマポリシー

1 学習成果

- (1) 知識
 - ア 人 - 作業 - 環境の関係およびそれらの健康と障害との関係に関する知識を身につけます。
 - イ 作業療法を実践する社会的背景を理解します。
- (2) 態度
 - ア クライアントや多職種と効果的な対人関係を保つ態度を身につけます。
 - イ 理論と実践を照らし合わせて行動する態度を身につけます。
- (3) 技能
 - ア 作業療法プロセスを理解し実践する技能を修得します。

2 学習環境

作業療法学科では上記の学習成果を生み出すために、次のような学習環境を提供します。

- (1) 人 - 作業 - 環境の関係の重視
 - ア 障害別作業療法学の科目における事例提示では、常に人、作業、環境の情報を提供します。
 - イ 人 - 作業 - 環境の関係を説明する理論を教授します。
 - ウ 人が環境において機能するために必要な「作業」についての情報を提供します。
- (2) 作業療法実践の社会背景の重視
 - ア 社会背景が作業療法実践に与える影響を理解するために、当事者による講義、地域関連機関への訪問を行います。
 - イ さらに学生が社会背景の理解を深めるために、ボランティアなど課外活動に参加しやすい環境を準備します。
- (3) 小グループによるプロジェクト学習
 - ア 学生が効果的な対人関係をもつことができるよう、授業課題として小グループによるプロジェクト学習を設定します。
- (4) 臨地実習
 - ア 学内授業では、附属診療センターを活用したり、地域の関連機関の協力を得たりして、作業療法プロセスを部分的に経験する機会を提供します。
 - イ 学外実習では、病院や施設において、作業療法プロセス全体を経験する機会を提供します。
- (5) 障害特性理解の重視
 - ア 障害特性理解のために、視覚教材の利用や障害者との接触を多く持ちます。

カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

本学科の教育理念・目的に基づき、専門教育科目は、人間と社会生活の理解に関する科目、保健医療福祉を発展させる科目、専門領域理解の基礎となる科目、専門領域特有の科目の4つの領域で構成されています。

専門領域特有の科目は、以下に示す科目群で構成されています。

- (1) 必修科目の科目群
 - 作業療法学基礎、作業療法評価学、作業科学、身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、認知障害作業療法学、発達・老年期障害作業療法学、地域作業療法学、臨床実習、卒業研究
- (2) 選択科目の科目群
 - 統合総合科目

2 専門教育科目の特色

- (1) クライエントの多種多様な個別ニーズに対し、関連領域の専門職と連携してよりの確なシステムを構築するために、共通領域科目についてはできるだけ他学科との合同講義とし、他専門職との相互理解を促進します。
- (2) 作業を科学的に捉える目を養い作業を通してクライエントの能力を引き出すことができる人材を育成するために、精神障害と身体障害の2大区分に加え、心身両面の障害を引き起こす中枢神経障害領域を設定し、あらゆる状況に対応できる専門知識と技術を修得します。
- (3) 学内附属診療センターの活用により、学生に見学、演習、実習の場を提供し、授業で学んだ知識と技術の統合を図ります。広島県内を中心に、臨床実習指導者や設備など受け入れ態勢が整った一般病院、リハビリテーション専門病院、精神科病院、発達障害児施設において作業療法の実践を体験します。また、通所リハビリテーションや在宅訪問、介護老人施設においても実習を行います。

3 ディプロマポリシーとの関係

作業療法学科のカリキュラムとディプロマポリシー（DP）との関係を下図に示す。

| 科目群 | DP 人 - 作業 - 環境 の関係およびそ れらの健康と障 害との関係を理 解する | 作業療法を実践 する社会的背景 を理解する | クライエントや 多職種と効果的 な対人関係を保 つ態度を身につ ける | 理論と実践を照 らし合わせて行 動する態度を身 につける | 作業療法プロセ スを理解し実践 する技能を修得 する |
|-------------------|---|-----------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 作業療法学基礎 | | | | | |
| 作業療法評価学 | | | | | |
| 作業科学 | | | | | |
| 身体障害作業療法学 | | | 学生間 | | |
| 精神障害作業療法学 | | | 学生間 | | |
| 認知障害作業療法学 | | | 学生間 | | |
| 発達・老年期障害作 業療法学 | | | 学生間 | | |
| 地域作業療法学 | | | | | |
| 統合総合科目 | 科目により多様 | | | | |
| 臨床実習 | | | | | |
| 卒業研究 | | | | | |

重視するものに

コミュニケーション障害学科

1 人材育成目標

- (1) 言語聴覚士として、先端的な医療チームの中で中心的な役割と責任を果たせる臨床的な技能・能力を持った人材を育成します。
- (2) 国家資格を得ることに加えて、学問的・社会的に高い目的意識を持って問題を解決していく研究能力と、豊かな教養を持った人材を育成します。
- (3) コミュニケーションや嚥下（飲み込み）障害に関する諸問題を科学的に捉え、幅広い関連分野の学問的発展を推進し貢献できる言語聴覚士を育成します。

2 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

(1) 基本理念

コミュニケーション能力は、最も高次の処理過程を必要とする認知機能の一つであり、その障害は、単に機能面だけでなく社会的な面にも及び、複雑かつ多様です。本学科では、コミュニケーション障害と、同じく複雑多様な障害である嚥下（飲み込み）障害に

対応できる臨床能力を持ち，保健・医療・福祉・衛生領域を中心に関連分野で広く貢献できる言語聴覚士の育成を目指します。また，高度な専門的知識と技能に加えて，専門領域における諸問題を科学的に捉え，学問的発展を推進できる能力を持ち，豊かな教養と人間的魅力を有する人材の養成を目指します。

(2) 求める学生像

- ア コミュニケーション障害や嚥下障害と，その基盤について深く学びたい人
- イ 自ら学び，広い分野の問題に柔軟に対応できる基礎学力を有する人
- ウ 柔軟なコミュニケーション能力と，他者との協調性を備えている人
- エ コミュニケーション能力に障害を持つ人を理解し，保健・医療・福祉の向上に情熱を持つ人

(3) 入学者選抜の基本方針

- ア 知識・理解
高等学校で履修した教科・科目について教科書レベルの知識を有し，特に，文章を正確に読解する力，外国語運用能力，歴史や社会に対する柔軟で幅広い理解力を持つことを求めます。
- イ 思考・判断
著書，論文，評論，資料などを論理的に正しく読み解き，的確な判断や推理を下せる洞察力を備えていることを求めます。
- ウ 関心・意欲・態度
障害者，とりわけコミュニケーション障害や嚥下障害を持つ人々の福祉に強い関心を持ち，その生活の向上や改善に熱意を持ち，他の専門職と連携して障害の究明と対策に真摯に努力し，主体的に社会に貢献する意志を持っていることを求めます。
- エ 技能・表現
障害を持つ人々の悩みや苦しみに謙虚に共感でき，多様なニーズに対応できる実践力を持ち，豊かな発想力と確かなコミュニケーション能力を備えていることを求めます。

[一般入試(前期日程)]

「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握のため，5教科6科目の大学入試センター試験を課すとともに，個別学力検査(小論文)では高等学校の基礎学力を前提とした課題に対する読解力，洞察力，理論的思考，文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

また，勉学への意欲と専門分野への適性を把握するため，面接によって質問に対する理解力，判断力，表現力および対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

大学入試センター試験，小論文，面接の得点の合計点で合否を判断します。

[一般入試(後期日程)]

基礎学力の面で，前期日程とは異なる資質・能力を持つ学生を選抜するため，「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握を，大学入試センター試験の3教科3科目で行います。

また，勉学への意欲と専門分野への適性を把握するため，面接試験において質問に対する理解力，判断力，表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

大学入試センター試験，面接の得点の合計点で合否を判断します。

[推薦入試]

県内（7名）および県外（2名）の優秀で意欲のある高校卒業見込み者を早期に選抜します。

基礎学力を把握するため、小論文試験を課し、高等学校の基礎学力を前提とした課題に関する読解力、洞察力、理論的思考、文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

また、本学進学のための目的意識、勉学への意欲、専門分野への適性を把握するため、面接で、勉学への意欲や堅実性などについて質問し、理解力、判断力、表現力および対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

小論文、面接の得点の合計点で合否を判断します。

[社会人特別選抜]

言語聴覚士への目的意識と勉学への意欲が高い社会人経験者（職歴通算3年以上、高等学校卒業程度以上）を若干名選抜します。

基礎学力を把握するため、小論文で課題に関する読解力、洞察力、理論的思考、文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

また、本学進学のための目的意識、将来への展望、勉学への意欲、専門分野への適性を把握するため、面接で、出願書類を参考に、勉学への意欲と堅実性などについて質問し、理解力、判断力、表現力および対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

小論文、面接の得点の合計点で合否を判断します。

ディプロマポリシー

1 学習成果

(1) 知識

保健・医療・福祉の分野において、身体的・精神的・社会的援助を必要とする人々への包括的なケアシステムを先導していく基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識を有します。

(2) 態度

豊かな人間性を備え、複雑なコミュニケーション行動について科学的に探求する意欲を持ち、保健・医療・福祉の第一線に立って活躍し、それぞれの現場で主導的役割を担え、ヘルスサポーターマインド（保健福祉の担い手としての態度・姿勢）を身につけ、チームアプローチを実践できます。

(3) 技能

多様なコミュニケーション障害（ことばときこえの障害）及び嚥下障害（飲み込みの障害）に対応できる言語聴覚士としての専門的臨床能力を有し、保健・医療・福祉分野に幅広く貢献できる実践力を持ちます。

2 学習環境

保健福祉学部を構成する5つの学科の連携を図り、臨床・実践教育に重点を置いたカリキュラムを提供します。

(1) 学生指導

学年ごとにおよそ10～20名程度の学生を担当するチューターを置き、学生が安心して登校し、勉学に勤しむことができるように、学生生活についての個別指導と助言を行います。

(2) 5学科共同の講義体制

1年次のフレッシュマンセミナー、チーム医療福祉論など、さらに、専門基礎科目、専門科目、4年次のチーム医療福祉論演習の履修等を通して、現代の医療と地域ケアに求められるチームアプローチを実践的に身に付けさせる機会を与えます。

(3) 臨床教育の充実

附属診療センター及び協力施設における学外臨床実習に加え、地域社会での活動を可能とする科目を配置し、障害者や患者団体及び地域保健福祉活動に関わるボランティア活動参加を積極的に支援し、リハビリテーションの実践的経験の場を提供します。

カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

コミュニケーション障害学科の専門に係わる教育科目は次の科目群より構成します。

(1) 人間と社会生活の理解に関する科目

コミュニケーション障害を理解するための前提となる、人およびコミュニケーションについての広い視点を修得します。

【解剖学，生理学，地域社会と言語，生命倫理学など】

(2) 保健医療福祉を発展させる科目

コミュニケーション障害を持つ人々を支援するために必要な包括的な知識，考え方を学びます。

【リハビリテーション概論，家族支援論およびチーム医療福祉論，チーム医療福祉演習など】

2 専門教育科目の特色

(1) 専門領域理解の基礎となる科目

脳，ことば，声，きこえおよび食べることの仕組みとその障害について基礎的な知識を学びます。

【臨床心理学，脳機能画像学，神経内科学，耳鼻咽喉科学，歯科口腔外科学など】

(2) 専門領域特有の科目

コミュニケーション障害，食べる機能の障害およびそのリハビリテーションについて専門的知識を学びます。

【発達系障害学，発声発語系障害学，聴覚系障害学，認知系障害学，および嚥下障害の概論と演習，臨床実習など】

(3) 卒業研究

コミュニケーション障害を科学的に捉え，関連する諸分野の発展に寄与できる知識と態度を修得します。

【コミュニケーション科学研究法，卒業研究】

3 ディプロマポリシーとの関係

(1) 人間の行動の中で最も複雑なコミュニケーション行動について，幅広く高度な知識を修得し，臨床実習を通してその知識をコミュニケーション障害の臨床像と一致させるプロセスを通して，多様なコミュニケーション障害に対応できる実践力を獲得できます。

(2) 日々発展するコミュニケーション障害に関する先進の知識，情報を収集し，自らもコミュニケーション障害の領域の発展に寄与できる科学的，研究的視点をもつ，リーダー的言語聴覚士となります。

カリキュラムポリシーとの対応表

| | 複雑なコミュニケーション行動について科学的に探求する | 包括的なケアシステムを先導する基礎から応用に涉る高度な専門知識を身につける | ヘルスサポーターマインドを身に着ける | 多様なコミュニケーション障害、嚥下障害に対応できる臨床能力を持つ |
|-----------------|----------------------------|---------------------------------------|--------------------|----------------------------------|
| 言語理論と言語心理 | | | | |
| 音声学 | | | | |
| 音声・聴覚情報処理 | | | | |
| 言語発達 | | | | |
| 学習・認知の心理学 | | | | |
| 心理測定法 | | | | |
| 生涯発達心理学 | | | | |
| コミュニケーション福祉工学 | | | | |
| 対人コミュニケーション論 | | | | |
| 音楽療法 | | | | |
| コミュニケーション障害学概論 | | | | |
| コミュニケーション障害学診断法 | | | | |
| 発達系障害学概論 | | | | |
| 発達系障害学演習 | | | | |
| 認知系障害学概論 | | | | |
| 認知系障害学演習 | | | | |
| 聴覚系障害学概論 | | | | |
| 聴覚系障害学演習 | | | | |
| 発声発語系障害学概論 | | | | |
| 発声発語系障害学演習 | | | | |
| 臨床実習 | | | | |
| コミュニケーション科学研究法 | | | | |
| 卒業研究 | | | | |

人間福祉学科

アドミッションポリシー

1 基本理念

保健・医療・福祉分野において、身体的・精神的・社会的援助を必要とする人々への包括的なケアシステムを先導していく高度な知識・技術と豊かな人間性を備えた人材を育成することを目指します。

2 人材育成目標

- (1) 基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識・技術を身につけた人材を育成します。
- (2) ヘルスサポーターマインド（保健福祉の担い手としての態度・姿勢）を身につけた人材を育成します。
- (3) 地域包括ケアの担い手としてチームアプローチを実践できる人材を育成します。

3 求める学生像

- (1) 人間が社会生活を営む上で生じる様々な問題に対して好奇心を持って自主的に学べる人
- (2) 問題の背景や要因について探求していこうという意欲のある人
- (3) 他者との協調性を備えている人
- (4) 柔軟なコミュニケーション能力のある人

4 入学者選抜の基本方針

[一般入試（前期）]

一般入試では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課しています。加えて、小論文試験では、読解力、洞察力、理論的思考力、文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

また、勉学への意欲と専門分野への適性を把握するため、面接試験を課しています。面接試験では、質問に対する理解力、判断力、表現力および対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

[一般入試（後期）]

一般入試では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験（4教科4科目）を課しています。加えて、小論文試験では、読解力、洞察力、理論的思考力、文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

また、勉学への意欲と専門分野への適性を把握するため、面接試験を課しています。面接試験では、質問に対する理解力、判断力、表現力および対応の仕方や態度などを総合的に判断し点数化して評価します。

[推薦入試]

広島県内高等学校推薦 11名及び広島県内専門高等学校等推薦 1名を募集します。推薦者に対して、基礎学力を把握するため、小論文試験を実施します。小論文試験では、課題に対

する読解力，洞察力，理論的思考力，文章表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。

加えて，人間福祉学科志望の動機，勉学への意欲，専門分野への意欲と適正を把握するため，面接試験を実施し，理解力，判断力，表現力等を総合的に判断し点数化して評価します。小論文及び面接の得点の合計点で合否を判断します。

[外国人留学生特別選抜]

外国人留学生を若干名募集します。試験は，小論文及び面接です。合否の判定については，小論文及び面接の得点と，日本留学試験の得点の合計点及び TOEFL 又は TOEIC のスコアを総合的に審査し判定します。

ディプロマポリシー

1 学習成果

(1) 知識

社会福祉の専門家として必要な価値を有し，様々な問題解決の援助を可能とする高度な専門的知識を身に付けます。

(2) 技能

基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識・技術を学び，ヘルスサポーターマインド(保健福祉の担い手としての態度・姿勢)を身につけ，地域包括ケアの担い手としてチームアプローチを実践できる，総合的実践能力・技能を有します。

(3) 態度

保健・医療・福祉の第一線に立って活躍し，将来，関連スタッフと連携を図りながら，地域の保健・医療・福祉分野のリーダーとして活躍できる社会福祉の専門家(社会福祉士，精神保健福祉士)となります。

2 学習環境

学部を構成する他の4つの学科との連携を図り，臨床・実践教育に重点を置いたカリキュラムを提供します。

(1) 1年次のフレッシュマンセミナー，チーム医療福祉論などを通して，学びの姿勢を育み，さらに，専門基礎科目，専門科目，4年次のチーム医療福祉論演習の履修等を通して，現代の医療と地域ケアに求められる人間性豊かなチームアプローチを身に付けます。

(2) 学年ごとにチューターを置き，学生が安心して登校し，勉学に勤しむことができるように，学生生活についての個別指導・助言を行います。

(3) 現代社会の様々な不適應現象に対処できる能力を身に付けるため，専門的理論科目群と実践的スキル群との有機的な統合を図ったカリキュラムを組み立てて提供します。

カリキュラムポリシー

1 専門教育科目の構成

人間福祉学科では、水準の高い福祉を実現できる人材を育成するために、社会福祉士国家試験受験資格取得を卒業要件としています。専門教育科目の構成は、基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識・技術を学び習得し、さらに、保健・医療の基礎知識とヘルスサポーターマインド（保健福祉の担い手としての態度・姿勢）を身につけることができるよう科目を次の順で配置しています。

- (1) 全学共通教育科目
- (2) 人間と社会生活の理解に関する科目、保健医療福祉を発展させる科目
- (3) 専門領域理解の基礎となる科目
- (4) 専門領域特有の科目（共通基盤科目群、応用・関連科目群）
- (5) 専門領域特有の科目（社会福祉士専門科目群、精神保健福祉士専門科目群）
- (6) 専門演習及び卒業研究

2 専門教育課程の特色

地域包括ケアの担い手として、チームアプローチを実践できる社会福祉の専門家を、育成することを特色としています。

- (1) ヘルスサポーターマインドの習得を進めています。
- (2) 保健・医療職とのチームアプローチを図れる力の習得を進めています。
- (3) 社会福祉士養成課程を卒業要件としています。
- (4) 社会福祉士養成課程を基盤とし、希望する学生に対しては、精神保健福祉士養成課程を設置し、二つの国家試験受験資格を取得することができます。
- (5) 履修モデルを具体的に提示しています。
- (6) スキル向上のために関連科目を充実しています。
- (7) 3年次「専門演習」を経て、4年次に卒業研究論文（必修）を作成します。

3 ディプロマポリシーとの関係

4年間で学生各人が学習成果（知識、技能、態度）を達成できるよう、図表のように科目を配置しています。

人間福祉学科のカリキュラムとディプロマポリシーとの関係

| | 知識 | 技能 | 態度 |
|-------------|----|----|----|
| 相談援助の基盤と専門職 | | | |
| 社会福祉援助技術論 | | | |
| 社会福祉援助技術演習 | | | |
| 社会福祉実習指導 | | | |
| 社会福祉実習 | | | |
| 専門演習 | | | |
| 卒業研究 | | | |

全学共通教育

カリキュラムポリシー

1 教育目的

本学の教育目標である「主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる実践力のある人材の育成」を達成するための土台となる、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養を涵養する。

2 全学共通カリキュラムの構成

【基幹科目】

(1) 学習目標

ア 大学教育に必要な基礎学力を養い、専門分野の特性を生かした人材育成の共通の基盤となる能力を修得する。

イ 専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法を身につける。

(2) 学習成果

基幹科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

ア 人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力を有する。

イ 現実を正しく理解する能力を有する。

ウ 社会に関する多様な知識と幅広い問題意識、柔軟な思考力を有する。

エ 論理的・創造的に思考する力を身につけ、自然科学を理解する基礎力を有する。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、基幹科目のカリキュラムには、人文学系、社会学系、理学系の各分野をバランスよく配置し、それぞれの分野に関連する多様な諸科目を幅広く提供する。

【複合科目】

(1) 学習目標

各学部 of 専門分野における最新の知見や課題を複合的に学び、自分の専門分野を超えて多角的な視野、幅広いものの見方を養う。

(2) 学習成果

複合科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

ア 今を生きる人間としての幅広い知識を身に付け、時代の変化や物ごとの本質を見抜いて行動する力を有する。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、遠隔講義システムを導入し、3キャンパス4学部の多様な授業科目を共通の資源として提供する。

【フレッシュマンセミナー】

(1) 学習目標

ア 新入学生を対象に、高校から大学への学びの橋渡しを行う。

イ 今後の人生の中で自ら学び続ける姿勢を身に付けることを目指す。

ウ 県立広島大学についての理解を深める。

(2) 学習成果

フレッシュマンセミナーの所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

- ア 大学生としての基本的・主体的学習スキルを有する。
- イ 専門分野についての基礎的理解と深い関心を有する。
- ウ 県立広島大学の学生としての意識を持つ。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、以下のような学習環境を提供する。

- ア 10名程度の少人数のゼミナール形式の授業を提供する。
- イ 従来型の一方的な講義形式ではなく、学生の主体性を養うための質疑応答を重視した授業展開を行う。

【外国語科目】

(1) 学習目標

- ア 異文化への関心と理解を深める。
- イ 世界で活躍することのできる外国語能力の基礎を育成する。

(2) 学習成果

外国語科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

- ア 他者を理解し、自己を表現する能力、および幅広い視野を持つことができる。
- イ 日常的な場面での目標言語の使用が可能である。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、以下のような学習環境を提供する。

- ア 1・2年次において週2コマ以上履修できる豊富な授業科目を提供する。
- イ 必修クラスにおけるクラスサイズは少人数クラス(30人前後)を実現している。
- ウ 発信技能中心の授業において目標言語を母語とする教員による授業を実現し、幅広い表現を身につけるための体制を構築している。
- エ 自学自習、および授業内容の理解促進と補強・定着をはかるため、一人一人のレベルに合わせて学ぶことのできるeラーニングシステムを提供する。

【情報科目】

(1) 学習目標

- ア 「情報処理入門」では、日常の情報収集・情報交換およびレポート作成・論文作成・成果発表などへ、コンピュータシステムを有効な道具として活用するために必要となる基礎的な知識と実践的なスキルを習得する。
- イ 「情報科学入門」では、情報化社会におけるコンピュータシステム利用の実際に関する基礎的な知識、および情報倫理と情報セキュリティに関する基礎的な知識を習得するとともに、コンピュータアーキテクチャに関する基礎的事項を理解する。

(2) 学習成果

情報科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

- ア 「情報処理入門」の単位を修了した学生は、オペレーティングシステムの基本操作、タッチタイピング、電子メール利用、ウェブブラウザ利用、ホームページ制作、ビジネス文書作成、プレゼンテーション資料および発表原稿作成において、何れも中級者レベル(教わらなくても自分で調べて利活用できる程度)の能力を有する。

イ 「情報科学入門」の単位を修了した学生は、企業活動や関連業務、問題分析および問題解決手法、システムの思考および論理的思考、情報処理の基礎理論、情報システムの開発設計から運用管理のプロセス、コンピュータシステムやネットワークおよびデータベース、各種法令やガイドライン、情報セキュリティなどに関する基礎的な（上位者の指導の下、業務の情報化およびシステム化の支援を行うことができる）知識を有する。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、以下のような学習環境を提供する。

ア 整備された演習室環境（ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、資料提示装置）を提供する。

イ 整備された課外学習教材（学習支援サイト、eラーニング教材）を提供する。

ウ 国家試験（ITパスポート試験）の受験をサポート（団体受験、勉強会、模試）する。

【保健体育科目】

(1) 学習目標

ア 健やかで豊かな「こころ」と「からだ」を育むための基礎知識・技能を理論的・実践的に学びながら、他者との関わりの中で他者と自己への理解を深める。

(2) 学習成果

保健体育科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

ア 身体運動・スポーツ活動についての合理的・組織的学習方法を習得している。

イ 健康と「体育・スポーツ活動」の関係について総合的・体系的に理解している。

ウ 個人や集団での身体運動・スポーツ活動を通じた意思決定能力・コミュニケーション能力を有している。

(3) 学習環境

上記のような学習成果を生み出すために、以下のような学習環境を提供する。

ア 少人数による「体育実技」の授業（原則必修単位）を提供する。

イ 「保健体育理論」の授業（原則必修単位）を提供する。

ウ 自然体験活動をベースとした学外セミナーを実施する。

エ 多様な身体運動・スポーツ活動のための体育施設・用具・情報を提供する。

【キャリア科目】

(1) 学習目標

主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる、THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY. を実践できる信頼感のある人材を目指す。

(2) 学習成果

キャリア科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

ア 社会の中で主体的なキャリア形成を実践できる行動力を有する。

イ 専門分野を自らのキャリア（職業人生）に活用できる、バランスの取れた視野・知識・コミュニケーション能力を持つ。

(3) 学習環境

ア 全学4学部11学科のカリキュラム及び専門科目との整合性を図って運営している。

イ 「キャリアデベロップメント」、「インターンシップ」、「キャリアビジョン」と、初年次からの体系的な科目運営によりキャリア形成を行う。